

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人碧晴会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム川口結いの家)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りシステム		エスパシア 3 モーター電動ベッド (KA-N1481F)	
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	10台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>ベッド老朽化に伴う更新に合わせ、ベッド内蔵離床センサー CATCHIIIを搭載した「エスパシアシリーズベッド (KA-N1481F)」を導入し、特に夜間帯の入居者様の転倒事故防止と見守り業務の効率化を図る。</p> <p>令和3年6月申請 令和3年12月ベッド搬入 (予定) 令和3年12月介護ロボット導入完了 (予定)</p>			
【倫理面への配慮】			
入居者様及びご家族に対し、システムの使用目的について説明を行い、同意を得た上で導入する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
<p>(1) 転倒転落事故の減少。</p> <p>(2) 介護職員の身体的・心理負担の軽減。</p>			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<p>(1) 入居者様のベッドからの転倒リスクの軽減。</p> <p>(2) 特に夜間帯での見守り業務の効率化による介護職員の精神的・身体的負担の軽減。</p> <p>(3) ベッドに内蔵された荷重センサーにより正確な検知が期待され、センサー誤報による駆けつけが減少。</p>			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 葆光会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム藤美苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守りケアシステムM2 (FBR-N135W1/M2) フランスベッド	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年11月1日	12	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
当該助成金の採択後、速やかに諸手続きを経て導入を図り、使用対象者に対する説明を行った上で使用開始します。 令和3年11月1日導入日(予定日)に本機器に携わる職員に対して使用に関する説明(研修)会を開催し速やかに本機器の使用開始を図ります。導入後は下記に掲げた目標の達成度合い、使用効果の評価を行い必要に応じて関係職員と共に使用方法の見直しや検討を図っていきます。			
【倫理面への配慮】			
ご利用者及びご家族に対して導入する介護機器の説明を行い、同意を得たうえで使用します。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
見守り業務を効率化し介護職員の業務負担を軽減させること また効率化かつ効果的な見守り業務を徹底し転倒転落に関する事故発生件数を導入前よりも減少させること			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
ご利用者のベッドからの転落リスクの軽減 介護職員の見守り業務の負担軽減 早朝や夜間等の人員の配置が減少する場合において介護職員のリスク管理に対する職員の精神的、身体的ストレスの軽減、安心して他の業務に当たれる職場環境の整備の実現。			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
<p>日勤帯は介護職員 11 名+看護職員 2 名+パート職員常勤換算で 5.9 名 夜勤帯は介護職員 3.5 名+看護職員 1 名</p>	<p>変更なし（人員は削減せず、介護職員の負担軽減につなげる）</p>
<p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）</p>	
<p>利用者一人ひとりに適したベットセンサーの設定により、訪室回数を減らし介護職員の身体的負担軽減。 利用者一人ひとりに適した高度なセンサー設定により、転倒、転落の心配による心理的負担軽減。</p>	
<p>利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組</p>	
<p>利用者のケアの質 余分な訪室回数を減らすことにより、睡眠の質を向上させることができる。 転倒、転落リスクが軽減しゲガの防止、骨折等によるその後の QOL の低下を防ぐ。 職員の休憩時間の確保等 休憩時間以外にも落ち着いた夜間であれば、体を休めながら夜勤業務ができる。</p>	
<p>これらの取組により期待される効果等</p>	
<p>これまで介護職員が一番の負担であった夜勤業務の身体的、精神的負担を見守りセンサー付きベットを導入することにより大幅に負担軽減できる。 これにより、離職率の低下を見込まれ、離職率の低下は残りの介護職員の負担軽減にも繋がり、利用者へのサービスの質にも繋がる。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 八起社)

事業所名 (特別養護老人ホーム東和荘)

サービス種別 (特別養護老人ホーム)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名			
見守り・コミュニケーション		エスパシアシリーズ KA-N1517F			
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年11月 1日	4台	令和3年11月 1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで		

【事業概要及び導入スケジュール】

【事業概要】

「エスパシアシリーズ KA-N1517F」の導入により、認知症状が多いフロアでの見守り業務の補助、効率化を図り業務負担の軽減を図ります。また利用者様の生活リズムを把握する事で、個別ケアへの取り組みや転倒・転落防止に取り組んでいきます。

【導入スケジュール】

令和3年 10月 機器設置事前調査
 令和3年 11月 機器導入
 令和3年 10月 機器使用方法 説明会(デモ・試験使用実施)
 以降、各年度毎に使用状況を報告
 適時、機器使用方法のフォローアップ説明会を実施

【倫理面への配慮】

使用対象の御利用者及び御家族に対し、見守りベッドの導入理由、機器の説明を行い、同意を得た上で使用を行います。御利用の際は、通常の超低床ベッドと同様に使用が可能となり、身体的・精神的拘束感を与えないことを御説明します。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ①超低床型及びセンサーを活用した転倒・転落事故の減少
- ②介護職員の身体的・心理的負担の軽減

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人長福会)
 事業所名 (デイパーク大府特別養護老人ホーム)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		見守りケアシステム M2 FBR-N132	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年 12月31日	3	令和3年12月31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>ご利用者を安全に又本人に知られる事なく見守れる事が可能なシステムを導入する事でベットからの転倒・転落事故防止を行う事を目標と致します。誰もが簡単に操作とセッティング可能なシステムを導入する事で機器を必要な方に対して誰もがきちんと使い機器設定の手間を省き不必要な見回りを減らし介護労力の削減を目指します。</p> <p>当該助成金の採択後、諸手続きを経て導入を図り使用対象者に説明をし使用を開始していきます。</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>ご利用者に対しては通常の電動ベットと全く同等品として取り扱って頂く事が可能となります。(当該センサーを導入する事でご利用者本人への身体的/精神的拘束感を与える事はございません。)</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<p>①転倒転落事故の減少 ②センサー誤報によるかけ付けを減少 ③職員の離職率の低下</p>			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<p>①ご利用者の転倒・転落事故の削減ができる。 ②従来型のマットセンサーを活用し続ける介護労力を削減できる。 ③誤報が少ないセンサーを採用する事で無駄なかけ付けを減少させ介護労力の削減を図る。</p>			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員 常勤 28人 非常勤 18人	介護職員 常勤 28人 非常勤 18人

見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）

居室におけるベットからの転倒・転落事故軽減すること。又、業務の効率化を図ることを目標とします。

具体的な取り組みとしては、まず e-ラーニングにて研修を行い、事故発生防止についての閲覧をし各職員の意識を高めます。

事故発生防止会議を設立し、事故についての意識を高め、各事業所で起きた事故に関しての分析等ができ、皆で話し合える場を確立する。

次に課題を把握する為、ベットからの転倒・転落事故に関し、どれほど事故が発生しているか？課題の把握を進めます。（昨年事故発生件数の1割削減を目標とする）

また、センサーベットを導入したことによりどれほど、時間的な効率化が図れたか？等分析いたします。（導入後の訪室回数、1割削減を目標とする。）

利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

誤報が少ないセンサーベットを導入することにより、必要な時に必要な介護ができ、今よりもケアの質を確保することができる。又、他のセンサー設置に関する労力と時間が削減され職員の負担の軽減にもつながる。

これらの取組により期待される効果等

- ・ご利用者のベットからの転倒・転落事故の削減が期待される
- ・他のセンサーマット等の準備する時間が削減できたり誤報が軽減し不必要な訪室をする必要がなくなり、職員の業務の効率化が図れる。転倒・転落等の職員の精神的な負担も合わせて軽減される。

介護ロボット導入計画書

法人名 (特定非営利活動法人犬山あんきにくらそ~~う~~会)
 事業所名 (宅老所今井あんきの家)
 サービス種別 (小規模多機能型居宅介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りベッド		パラマウントベッド エスパイアシリーズ KA-N142F	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年2月1日	9台	令和4年2月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>【事業概要】 「エスパイアシリーズ KA-N142F」の導入により、見守り業務の補助効率化を図り業務負担の軽減を図ります。生活リズムの把握に努め、特に夜間の転倒・転落防止に取り組んでいきます。</p> <p>【導入スケジュール】 令和3年 10月 機器設置事前調査 令和4年 2月 ICT導入・ベッド導入 令和4年 2月～ ベッド使用開始</p>			
【倫理面への配慮】			
利用者様及びご家族に対して、システムの使用目的について説明し同意を得たうえで導入します。			
<p>【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p>			
① 転倒転落事故の減少 ② 介護職員の身体的・心理的負担の軽減			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
① 利用者様の転倒・転落のリスクを軽減し安全に生活ができる。 ② 利用者様への過度の監視による不快感・拘束感を与えないための配慮ができる。 ③ 介護職員の身体的・心理的負担の軽減が図れる。 ④ 記録データを活用し、利用者様の生活リズムを把握し、個別ケアの充実が図れる。			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員人員配置 2.0:1	介護職員人員配置 2.5:1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none">① 転倒防止・安否確認による巡視を現在夜間100分かけているところを50分に削減できるようにする。(50%減)② 現在使用している介護記録ソフトとベッドのデータとの連携を図り、記録に要する時間を現在540分程度かけているところを360分に削減できるようにする。(33%減)③ 記録時間の短縮とベッドのデータの連携により、申し送りの時間を一日30分から10分に短縮できるようにする。(66%減)	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">① センサー付きのベッドの活用により、転倒リスクが軽減され、職員の身体的・心理的負担を軽減する。② 見守りセンサー導入により、夜間の定期巡視業務の負担を軽減。③ 見守りセンサー導入により、利用者の眠りの状況を把握し排泄のケアに活用できる。④ 利用者の生活リズムの把握により、的確な介助が実現できる。	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none">① 記録業務の徹底削減② 夜間巡視の廃止③ バイタルデータ感知による安心介護④ 転倒・転落の危険リスクの軽減⑤ 介護職員がデータにより緊急度を的確に判断し訪室できる。⑥ 介護職員の精神的、身体的負担の軽減	

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人 仁医会)
 事業所名 (西尾老人保健施設)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援システム		眠り SCAN (NN-1320) パラマウントベッド株式会社	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月6日	6	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

●事業概要

眠りスキャンを導入することにより、利用者の睡眠リズムや心拍・呼吸の状態を把握出来る為異常の早期発見に繋げる。また、居室で過ごす利用者の状態を見える化することにより、従業員の業務負担の軽減を図る。

●導入スケジュール

交付決定後に発注。令和3年12月に導入

【倫理面への配慮】

- ・利用者及び家族に対して機器を使用する目的等についての説明を行う。
- ・機器使用上の知り得た利用者の個人情報については、厳重に管理する。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ① ベッド上で過ごす利用者の状態をリアルタイムでモニタリングできる。
- ② 従業員の夜間の訪室を減らし業務負担の軽減を図る。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- ① 利用者の状態の変化を早期に把握できるため、転倒や転落等の事故防止に効果が期待できる。
- ② 利用者の睡眠を妨げることなく、従業員の夜間業務における心身負担の軽減を図ることができる。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1.94:1	1.5:1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在1時間ごとに定時巡視を行っている。夜間に7回ほど(1回あたり約15分)行っているが、眠りスキンの導入により、必要な訪問のみに特化できる。 ・ 定時巡視にかかっていた時間を他の業務(介護業務等の事務作業)に振り分けることができ、業務の効率化につなげることができる。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間の定時巡視を減らすことにより、効率的な訪室が行える。それにより職員の移動距離が削減でき体力的な負担軽減につなげることができる。 ・ 訪室しなくても利用者の睡眠状況を把握できる、つまり見える化することにより、職員の安心感につながり精神的な負担軽減につなげることができる。 ・ 利用者の睡眠状況を把握しやすくなることにより、利用者の状況に応じたタイミングでのおむつ交換ができ、利用者の安眠につなげることができる。 ・ これまで、職員が訪室した際に利用者の健康状態を目視によって確認していたが、体調の変化や異常を常に把握することができる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間の業務に関する負担を軽減することにより離職防止につながる。また、介護現場、特に夜勤業務での負担軽減により、介護の仕事に対するイメージ向上を図ることができ、職員の新規採用につなげることが期待できる。 ・ 夜間の利用者の体調変化などに迅速に対応できることにより、利用者あるいは家族への安心感の提供につながる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 株式会社フレンズホーム
 事業所名 介護付有料老人ホームフレンズ下之一色
 サービス種別 地域密着型特定施設入居者生活介護

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り機器		眠り SCAN NN-1320 (パラマウントベッド)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年11月15日	6	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
見守り機器の導入により、介護職員の見守り業務（特に夜間帯）の効率化と介護負担の軽減を図る。 交付決定後、速やかに発注 機器手配 動作検証			
【倫理面への配慮】			
入居者様及び入居者家族に対し、システムの使用目的について説明を行い、同意を得たうえで導入します。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等 スムーズな介護ロボットの利用による、介護ロボット導入効果の達成。 職員の見守り業務（特に夜間帯）の減少（時間短縮） 夜間の巡視時に入居者を起こしてしまうことなく、安否確認をすることで、入居者の安眠を守り、また、安眠中の入居者を起こしてしまうのではという心理的不安から介護者を開放する。			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
入居者により自宅での生活に近い快適な生活を送っていただく。 介護者の介護負担を軽減する。			

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜間帯（20:00～翌5:59） 29:2	夜間帯（20:00～翌5:59） 23:2
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>夜間の見守りについて、1時間おきに訪室しているが、介護職員にとっては肉体的、精神的な負担が大きく、また入居者の安眠の妨げとなっている。見守りセンサーを導入することにより、入居者の睡眠状態を把握し、熟睡している時は訪室を止めることができ、介護職員の介護負担を軽減する。</p>	
<p>利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組</p> <p>入居者が熟睡している時は訪室を止め、また睡眠リズムをみてオムツ交換のタイミングを変える事により、入居者により良い睡眠をとっていただくことができる。</p> <p>職員は1時間おきに訪室しており、（3分程度）見守りセンサーを6台導入することにより、夜間帯（20:00～翌5:59 までの10時間） 3分×6台×10回 約180分の介護負担の軽減を図る。</p> <p>また、熟睡している利用者を起こしてしまう精神的な負担の軽減を図る。</p>	
<p>これらの取組により期待される効果等</p> <p>入居者の睡眠状態を把握することにより安眠を妨げない。また、夜間に覚醒している入居者を優先的に訪室することにより、転倒などの事故を防止する。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社エヌエス)
 事業所名 (なごみの里)
 サービス種別 (認知症対応型生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 . . . 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム「眠り SCAN」	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年10月1日	4台	令和3年9月30日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

事業概要

見守り支援により業務の効率化を図り、介護従事者の負担を軽減すると共に、入居者の状況をリアルタイムで確認し、入居者の見守りの強化を図る

導入スケジュール

補助金交付決定後、速やかに購入し、導入する。

【倫理面への配慮】

入居者及び家族へ機能と使用目的の説明を行い、同意をいただいた上で適切に使用する。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

入居者の状態の変化や呼吸状態を把握でき、夜間の定期巡視業務の負担を軽減し、また見守り業務を見える化し、スタッフの安心感向上と業務の効率化や入居者の夜間の睡眠を妨げることのない介護を提供していく。また転倒や転落等の事故防止や看取り利用者の状況把握にも活用していきたい。

(介護ロボットの導入により期待される効果等)

利用者の定期巡視の人数や回数を減らし、職員の負担軽減ができる。
 夜間の定期巡視により利用者を起こしてしまうことがなくなり、入居者の状態(睡眠、覚醒・起き上がり・離床)を早期に把握できるため、転倒や転落等の事故防止の効果が期待できる。
 心拍数や呼吸数、睡眠状態を把握できるため、夜間帯の介護スタッフにおける、精神的・身体的負担の軽減が図れる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
4 : 1	3.92 : 1 R3.7.20 日時の数:41
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の見守りでは2-3時間おきに訪室しているが、1フロアに2台ずつ眠りスキャンを導入して定期巡視の一部を廃止し、必要時に訪問するようにする。延べ訪問回数を職員一人あたり平均8回減らす。 ・紙媒体から記録システムに移行し転記の削減やタブレットによる入力が可能となり、記録時間を一人一日あたり、日中10分削減し、夜間は40分削減する。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・眠りスキャンにて利用者の睡眠状態を把握して介護サービスの質を向上させ、夜間時の無駄な訪室を減らし、職員の肉体的・精神的な負担を減らす。 ・認知症などにより、行動が掴みづらい入居者の起き上がりに対してより早く対応することが可能になり、未然に転倒事故を減らせる。 ・看取り利用者に対する活用では心拍数や呼吸数を把握できる機能を活用し、職員の精神的な安心感が得られる。 ・介護記録ソフトの導入にて、日誌や報告書等における重複項目がなくなることで職員の負担が軽減でき、情報共有もスムーズにできる。 ・クラウド方式により、個人データを持ち運ばなくて済む。 ・職員による申し送りが減り速やかに休憩に入ることができる。 ・タブレットにより記録の統一化が図れる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の負担軽減に繋げられる ・利用者の支援の充実・ケアの質の向上 ・職員のモチベーションが向上し、質の高いサービスと人材の定着や確保 ・電源の入れ忘れ等による人為的ミスによる事故の削減 ・ペーパーレス化による管理労力や管理コストの削減 ・資料の統合による効率的な業務の負担軽減 ・請求ミスを減らすことができる 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社 安里)
 事業所名 (株式会社安里 東海橋苑)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		コールマットN・スマート	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年8月1日	3台	令和3年8月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>事業概要……見守り体制の効率化を図り、昼夜を問わない介護職員の業務と心理的な負担軽減を図る。</p> <p>入居者様に対しては残存機能を最大限に生かせる日常生活の提供に努め、且つその中で発生する転落転倒事故の防止に努める。</p> <p>事業スケジュール……令和3年7月デモ機にて機器取扱説明会実施 デモ機試用 (1週間程度を予定) 令和3年8月機械導入予定</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>入居者様の尊厳、プライバシーを十分に配慮する。</p> <p>当該入居者様及びご家族様へ導入についての説明又同意を得た上で活用していく。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職員の見守り業務と心理的負担の軽減 (見守り体制の効率化) (ベッドからの離床等、入居者様の状態をいち早く確認できるため) ・ 転落事故等の発生軽減や予防し入居者様の日常生活動作の維持を図る (転倒等リスクの高い入居者様の状況が把握しやすくなるため) 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者様が自発的な介助を求める行動 (ナースコールを押す・声を上げる等) から得る情報だけに頼らず通知機能により多くの職員が当該入居者様の行動を察知・訪室することができる。 ・ 転倒転落事故の発生件数の軽減、また入居者様の日常生活動作の維持を図ることができる。 			

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社 刈谷ケアサービスくら)

事業所名 (短期入所生活介護さくら)

サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム『眠りスキャン』	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年11月 1日	20台	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
【事業概要】 当施設が移転のため新施設に導入予定。(新施設は12月末完成予定) 機器導入により利用者様の睡眠状態や心拍数をリアルタイムで可視化出来るため、夜勤者の業務の効率化、また利用者様が寝ている時の巡回を減らす事や適切な生活支援に繋げ、ケアの質を上げる効果を期待している。			
【導入スケジュール】 補助金交付申請⇒補助金交付決定⇒購入⇒納品⇒使用前研修⇒使用			
【倫理面への配慮】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の負担軽減 ・ 利用者様の安全な入浴のため使用前研修を行い、本人及びご家族の同意のもと使用する。 			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者様の状態(睡眠・覚醒)の変化に素早く気づき対応し、転倒等を防止する。 ・ 利用者様の呼吸・睡眠のデータがリアルタイムで分かるため職員の業務の肉体的・精神的負担を軽減する。 ・ 利用者様が睡眠時は巡回を減らす事が出来、睡眠時間の向上に繋がる。 ・ 利用者様のご家族が安心してショートステイを利用出来る環境づくり。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者様の状態(睡眠・覚醒・呼吸・心拍数)の把握が出来る。 ・ 利用者様の転倒防止 ・ 職員の業務効率化、肉体的・精神的負担の軽減 ・ 利用者様のご家族が安心して利用出来ることで満足度の向上 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員6人・看護職員1人・夜勤1人	介護職員5人・看護職員1人・夜勤1人
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>職員がスマートフォン端末を持つことで、見守りセンサーの情報を確認でき、施設内のどこにいても居室で臥床中の利用者様の状態を把握することが出来る。</p> <p>そのことにより定期的に居室を巡回し状態変化の確認にかかっていた時間の短縮ができ、人員体制の効率化に取り組める。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の状態（睡眠・覚醒）の変化に素早く気づき対応し転倒等を防止する。 ・利用者様の呼吸・睡眠のデータがリアルタイムで分かるため職員の業務の肉体的・精神的負担を軽減する。 ・利用者様が睡眠時は巡回を減らす事が出来、睡眠時間の向上に繋がる ・巡回数が減ることにより職員の休憩時間の確保が取りやすくなる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の状態（睡眠・覚醒・呼吸・心拍数）の把握が出来る。 ・利用者様の転倒防止 ・職員の人員体制の効率化 ・職員の業務効率化、肉体的・精神的負担の軽減 ・職員の休憩時間の確保 ・利用者様のご家族が安心して利用出来ることで満足度の向上 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会医療法人杏嶺会)
 事業所名 (老人保健施設やすらぎ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守りセンサー			眠りスキャン		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年8月10日	20台	令和3年8月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで		
【事業概要及び導入スケジュール】					
眠りスキャンを利用することで、利用者の睡眠状況が把握でき、リアルタイムに業務に直結できるような状況を作る。必要なケアを可視化できる。					
【倫理面への配慮】					
利用者、家族に対して使用目的を説明し、理解を頂く					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)					
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)					
眠りスキャンの使用により、睡眠状況、覚醒状況の把握を行い、睡眠の妨げにならないように心がける事と、本人に必要なケアの提供ができるようにする。また、夜間帯などの少人数の勤務時間帯には、業務の可視化により、本当に必要な時間にケアの提供をすることで、精神的、身体的にも介護負担の軽減となる事が目標である					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
利用者の睡眠の状況の確認と、個別なケアの実現 職員の適切な時間なケアの提供 職員の介護負担の軽減					

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜間の介護職員4名と看護職1名の計5名体制	夜間の介護職員3名と看護職1名の計4名体制へ変更
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
見守りセンサーとインカムを使用することで、業務の可視化と迅速な連携が可能となり、記録もタブレット端末を使用することで、記載の効率性も向上させられる。これにより、不効率な業務をなくしその時本当に必要な業務を行う事で、夜間帯の人員体制を変更し、それにより、昼勤務する職員を増やすことが可能となる。また、人員の増員をさせることなく行える体制をつくる	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
上記の機器を使用することで、間接業務と直接業務の区分けし、優先順位が明確化させる。これにより、利用者の個別性を重視したケアを提供することが可能となる。また、これにより、必要なケア、必要な時間を可視化することで、休憩時間の再検討する事ができる。介助が必要な時間に休憩に入らないように、介助がそれほど必要な時間でない時間に休憩をとれる体制をつくる。	
これらの取組により期待される効果等	
介護業務の可視化により、分業化を推奨している。誰がやっても同じ成果になるように期待したい。	

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社さちコーポレーション)

事業所名 (グループホームさち)

サービス種別 ((介護予防) 認知症対応型共同生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム「眠り SCAN」	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	18台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

事業概要

見守り支援システム「眠り SCAN」を使用することにより、利用者様の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）をリアルタイムで可視化し、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。また、状況に合わせてのケアを行うことにより、利用者様に提供するケアの質の向上を図る。

導入スケジュール

補助金交付決定後、速やかに導入する。（令和3年度 12月導入予定）

【倫理面への配慮】

ご利用者様及びご家族様に対し使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用する。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】（3年間目処）

（介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等）

リアルタイムに可視化される利用者様の状況に合わせ、個別ケアを行い、ご利用者様の夜間の睡眠を妨げないよう介護を提供する。また、夜勤職員の業務の効率化、精神的・身体的な負担の軽減をさせる事を目標とする。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- ・利用者様の睡眠・呼吸・心拍状況の把握。
- ・利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現。
- ・職員の精神的・身体的な負担の軽減。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
0.9 : 1	0.8 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠り SCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。 ・「眠り SCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった入居者様の情報が入り、タイムリーかつ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進する。 ・余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠り SCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行う。 ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC・モバイル端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認する。 ・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更する。 ・睡眠リズムのデータを医師と共有し、状態にあった睡眠導入剤の処方や見直しを行う 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や入居者様ごとに合わせた個別ケアが実現できる。 ・入居者様を無駄に起こすことがなくなるため、入居者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・入居者様の睡眠時間確保できるようになれば、入居者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社フレンズハウス)
 事業所名 (グループホーム フレンズハウス七番町)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 / . 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		眠り SCAN	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	4	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>【事業概要】 見守りセンサー導入により、利用者の夜間の睡眠状態を遠隔リアルタイムでモニタリングすることができ、利用者の安眠と見守りの強化につながる。また職員の巡視訪室回数を減らし、精神的・身体的負担を軽減し、業務の効率化を図る。</p> <p>【導入スケジュール】 補助金交付決定後、購入・導入をする。納品後、介護従事者へ利用方法を説明し、運用を開始する。</p>			
【倫理面への配慮】			
利用者及び家族に対し、見守りシステムの使用目的や機能について説明を行い、同意を得たうえで使用する。また運営推進会議において同様の説明を行う。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔リアルタイムでモニタリングすることにより睡眠状態が確認でき、安眠状態であれば巡視訪室回数を減らすことができる。それにより職員の精神的・身体的負担の軽減、安心感につながる。 ・巡視訪室回数を減らすことにより利用者の安眠を妨げることなくサービス提供ができ、離床センサーの機能により転倒・転落等の事故防止、また異常の早期発見の強化につながる。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間帯の職員の介護時間の短縮により業務の効率化、及び精神的・身体的負担の軽減 ・利用者の睡眠状態を把握し、安眠を保つ、また生活リズムの改善 ・利用者の転倒・転落等の事故防止、及び異常の早期発見 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
81 : 1	69 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>夜間の巡視訪室回数を軽減するために見守りセンサーを活用する。現状、夜10時から翌朝6時までの間、職員2名で1時間おきに18名（18室）巡視を行っている。見守りセンサー導入後、機器設置者利用者（4名予定）は、遠隔モニタリングにより睡眠状態が安定している場合は巡視を2～3時間おきにし、できるだけ巡視訪室回数を減らす。それに伴い、利用者の安定した睡眠と職員の巡視回数の減少により介護時間の短縮につなげる。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪室することなく利用者の睡眠状態を把握することができ、訪室することで利用者を起こしてしまうことが減少し、安眠や必要最小限のトイレ誘導につなげることができる。また、離床センサーにより転倒・転落防止、また異常の早期発見につながる。 ・ 夜間巡視の訪室回数が減ることにより、介護時間の短縮、精神的・身体的負担軽減につなげる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守りセンサーを活用し、利用者の夜間の睡眠状態を遠隔でリアルタイムに把握することができる。これにより巡視訪室回数が減少し、利用者の安眠と適切なトイレ誘導を行うことができ安定した生活リズムをつくることができる。 ・ 職員は巡視訪室回数が減少することにより、介護に要する時間が減少し、業務の効率化につながる。遠隔リアルタイムで睡眠状態やバイタルを把握できるため安心感ができ、精神的・身体的負担の軽減につながる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人すいと福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホームふぁみりい怒苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		眠り SCAN (パラマウントベッド)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	80台 72	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>・事業概要 当該機器の導入により、介護職員の業務負担を軽減するとともに、介護支援専門員を中心とした専門職が入居者の睡眠状況を適切に把握する事ができる。また、リアルタイムでの睡眠状況を把握することで、適切な介入ができ介護サービスの質向上につながる。</p> <p>・導入スケジュール 交付決定後に速やかに導入する。介護職員や専門職を対象に機器使用の説明会を開催する。導入後は事故対策委員会において、得られた効果や使用状況について定期的に検証する。</p>			
【倫理面への配慮】			
入居者や家族に対して機器使用による効果を説明し、その同意を得たうえで使用を開始する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・見守り介護の効率化を図り、定時巡視を見直して介護職員の業務負担を軽減する。 ・夜間帯におけるベッドからの転落など事故リスクを減らし、事故発生件数を減少させる。 ・睡眠状況の可視化により、睡眠導入剤や安定剤の投与を見直す。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の睡眠状況を適切に把握する事により、体調変化にも早く気付くことができる。 ・夜間の行動把握や睡眠状況、バイタル値を確認してケアプランを見直す事ができる。 ・居室へ入るタイミングを図ることで、入居者の睡眠を妨げない事ができ、職員入居者共の負担軽減につながる。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に早番、日勤、遅番、夜勤のシフト体制で2時間毎の定時巡視を行っており、夜勤職員が1人になる夜勤帯には特に精神的かつ肉体的にも負担が大きい。 ・入居者の重度化により、直接介護の業務が増加し、見守り職員の確保が困難になりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・臥床時間中の定時訪問を見直す事により、業務に余裕が生まれ、巡視業務の人員負担を全体で常勤換算2.0人程度軽減が見込まれる。 ・ユニット毎での業務分析を行い、業務改善や利用者と触れ合う時間を増加させることができる。
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフルームにてパソコンモニター越しに利用者を見守ることにより、訪室することなく利用者の睡眠状況を把握でき、「熟睡している時は訪室しない」などオペレーションを変更する。 ・居室で過ごす利用者の「睡眠・覚醒・起き上がり、離床」と臥床時の心拍数と呼吸数をリアルタイムで確認でき、覚醒者への対応を早急にするなどケアの優先順位を立てる事により、職員が効率的に業務でき事故リスクの低下にもつながる。 ・睡眠状況を記録作成時に何度も記録を転記する必要があったが、介護記録の電子化を行い情報の一元管理を行う事で、記録作成の負担が軽減。また、入居者情報の共有が可能となる。 ・介護業務の中での多忙な時間帯の把握と効率化につながる。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは定時巡視や定時のおむつ交換をすることにより、入眠中の利用者を起こしてしまいケアの質低下を招いていたが、眠りSCANを活用することにより、入居者の睡眠状況がリアルタイムで把握でき、最適なタイミングでの訪室や介入ができるようになる。これにより利用者スタッフ共にメリットが大きい。 ・日々の睡眠状況を把握し、睡眠直前のおむつ交換をしないなど、利用者の状況に応じたケアを行う事ができる。これにより熟睡できる利用者の増加が見込まれる。 ・これまでは休憩中にもコール対応する事があったが、睡眠状況の可視化により睡眠パターンや生活リズムの把握ができ、職員の休憩時間の確保や精神的にも身体的にも負担軽減となる。 ・臥床している利用者の心拍数や呼吸数も検知してアラート対応もできるため、バイタルサインの変化や心肺停止状態など、急な体調変化にも対応できる。 ・個人の睡眠状況を把握することで、日中と夜間に適したケアプランの作成につながる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤帯を中心とした職員の精神的負担の軽減 ・離職者の減少 ・入居者及び家族様への睡眠状況の可視化による説明 ・バイタルサインの変化、急変時や体調変化の早期発見 ・睡眠導入剤や安定剤投与効果の検証 ・多職種間での情報共有 ・転倒などの事故を未然に防止 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (特定非営利活動法人 るるるん)
 事業所名 (グループホーム「風楽里」)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム眠り「眠り SCAN」	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年11月1日	3台	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>事業概要 見守り支援システム「眠り SCAN」を使用することにより。利用者様の情報（睡眠、覚醒、起き上がり、離床、呼吸数、心拍数）をリアルタイムで可視化し、業務の効率化、介護従事者の負担を軽減する。また、状況に合わせてのケアを行うことにより、利用者様に提供するケアの質の向上を計る。</p> <p>導入スケジュール 補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和3年度11月導入予定)</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>ご利用者様及びご家族様に対し使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用する。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
<p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>リアルタイムに可視化される利用者様の状況に合わせて、個別ケアを行い、ご利用者様の夜間の睡眠を妨げないよう介護を提供する。また、夜勤職員の業務の効率化、精神的、身体的な負担の軽減をさせることを目標とする。</p>			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ●利用者様の睡眠、呼吸、心拍状況の把握 ●利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現 ●職員の精神的、身体的な負担の軽減 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

ス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
昼間の時間帯 3名体制	昼間の時間帯 2名体制
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>現在使用しているベッドが超低床ではないため、認知症で動かれる方は転落の危険があり、床にマットを敷いて寝ている状況です。それと職員が少ないために、入居者様が必要な時になかなか入居者様の所に伺えないのが現状です。特に夜勤職員が対応する時は、1人の職員で9名のご利用者様の対応をしていて、入居者様の職員の手が必要な時が分からずに、対応が遅くなる事もしばしばあります。見守りセンサー付きの超低床ベッドを導入できる事になれば、入居者様の必要な状況が確実に把握できるのではないかと考えています。基本的に入居されているご利用者様は、自由に自分の居室に帰って寝てみえる時もあります。定期的に巡回はしていますが、本人の状況を把握できていないときもあります。見守りセンサーを導入する事で、本人が居室にかえって、休んでみえてもその状況を把握できますし、必要があればタイムリーに利用者様の対応することができます。職員は基本的に、居間の共用部分で他の利用者様に対応している事が多く、居間で居室に見えるご利用者様の把握できれば、業務の効率化が図れると確信しています。見守りセンサーを導入する事で、現在の介護人材の不足による人員不足にも対応できる事が出来るはずです。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>認知症介護に於いて、本人の症状が安定しない時に職員が対応する事で、昼の休憩の確保が出来ない事がよくあります。当法人においては、職員の認知症介護の質の向上の為に、月に2回バリデーシオンティーチャーをお呼びして、バリデーシオンの研修会を開催しています。利用者様本人の考えて見える事や、能力等を知るすべがなかなかありませんが、バリデーシオンをご利用者様も一緒に参加する事で新しい発見もあり日々の介護に役立てています。ご利用者様の能力の発見で、その方にどのような役割を持っていただけるのかを知る機会になっています。見守りセンサー導入により、ご利用者様の状況を把握することで、定期的見守りを行わなくてもよくなり、介護の効率化を図り、職員の休憩時間の確保や介護負担軽減につながります。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>職員の労働環境の改善や、時間外労働をなくす事につながっていきます。介護事業は、人相手の仕事であるため、サービス残業につながるケースがあることもありますが、見守りセンサーの導入により、タイムリーな介護とご利用者様の状況把握を可能にして、業務の効率化が図られていくと考えます。</p>	

介護ロボット導入計画書

事業所名

(グループホーム「風楽里」)

サービス種別

(認知症対応型共同生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守り支援			エスパシアシリーズ KA-NN1481F		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年11月1日	3台	令和3年11月1日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	
【事業概要及び導入スケジュール】					
事業概要 「エスパシアシリーズ」の導入により、見守り業務の補助、効率化に取り組み、業務負担の軽減を図ります。また利用者様の生活リズムを把握することで、個別ケアへの取り組みや転倒、転落防止に取り組んでいくとともに利用者様に提供するケアの質の向上を計る。					
導入スケジュール 補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和3年度11月導入予定)					
【倫理面への配慮】					
ご利用者様及びご家族様に対し使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用する。					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)					
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)					
●利用者様の転倒、転落事故の防止、減少 ●介護職員の精神的、身体的な負担の軽減をさせることを目標とする。					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
●利用者様の転倒、転落事故の防止、削減 ●利用者様の不快感、拘束感を与えないための配慮 ●介護職員の精神的、身体的な負担の軽減					

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること(「介護サービ

ス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
昼間の時間帯 3名体制	昼間の時間帯 2名体制
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>現在使用しているベッドが超低床ではないため、認知症で動かれる方は転落の危険があり、床にマットを敷いて寝ている状況です。それと職員が少ないために、入居者様が必要な時になかなか入居者様の所に伺えないのが現状です。特に夜勤職員が対応する時は、1人の職員で9名のご利用者様の対応をされていて、入居者様の職員の手が必要な時が分からずに、対応が遅くなる事もしばしばあります。見守りセンサー付きの超低床ベッドを導入できる事になれば、入居者様の必要な状況が確実に把握できるのではないかと考えています。基本的に入居されているご利用者様は、自由に自分の居室に帰って寝てみえる時もあります。定期的に巡回はしていますが、本人の状況を把握できていないときもあります。見守りセンサーを導入する事で、本人が居室にかえって、休んでみえてもその状況を把握できますし、必要があればタイムリーにご利用者様の対応することができます。職員は基本的に、居間の共用部分で他の利用者様に対応している事が多く、居間で居室に見えるご利用者様の把握できれば、業務の効率化が図れると確信しています。見守りセンサーを導入する事で、現在の介護人材の不足による人員不足にも対応できる事が出来るはずです。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>認知症介護に於いて、本人の症状が安定しない時に職員が対応する事で、昼の休憩の確保が出来ない事がよくあります。当法人においては、職員の認知症介護の質の向上の為に、月に2回バリデーショナルティーチャーをお呼びして、バリデーショナルの研修会を開催しています。利用者様本人の考えて見える事や、能力等を知るすべがなかなかありませんが、バリデーショナルをご利用者様も一緒に参加する事で新しい発見もあり日々の介護に役立てています。ご利用者様の能力の発見で、その方にどのような役割を持っていただけるのかを知る機会になっています。見守りセンサー導入により、ご利用者様の状況を把握することで、定期的見守りを行わなくてもよくなり、介護の効率化を図り、職員の休憩時間の確保や介護負担軽減につながります。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>職員の労働環境の改善や、時間外労働をなくす事につながっていきます。介護事業は、人相手の仕事であるため、サービス残業につながるケースがあることもありますが、見守りセンサーの導入により、タイムリーな介護とご利用者様の状況把握を可能にして、業務の効率化が図られていくと考えます。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社ウェルヴィレッジ)
 事業所名 (ウェルホームからん)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けようとする補助率	3 / 4 1 / 2		
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	眠り SCAN NN-1320		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	20台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

事業概要

見守り機能による各情報（睡眠・覚醒・臥床・起床・呼吸数・心拍数）をリアルタイムで把握し、ご利用者の見守り強化と介護職員の業務効率を図る。

導入スケジュール

補助金交付決定後、速やかに導入する。

【倫理面への配慮】

ご利用者様、及びご家族に対して導入する機器説明を行い、同意を得たうえで使用します。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】（3年間目処）

（介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等）

- ・見守り機能（臥床・離床センサー）を活用して転倒転落事故を軽減する。
- ・夜間帯の睡眠状態を把握してご利用者の個別的ケア（睡眠を妨げないケア）を実現する。
- ・夜間業務の効率化により夜勤時の労務環境を改善する。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- ・ご利用者の状況把握（睡眠・覚醒・臥床・起床）により転倒・転落などの事故防止の効果が期待される。
- ・ご利用者の睡眠時間を確保することが期待できる。
- ・ご利用者の状態把握（睡眠・覚醒・臥床・起床・呼吸数・心拍数）により夜勤時の介護職員の身体的・精神的負担軽減が期待できる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3. 1 : 1	3 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>・見守りセンサー「眠り SCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。</p> <p>・「眠り SCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった入居者様の情報が入り、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進する。</p> <p>※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。</p> <p>余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>・見守りセンサー「眠り SCAN」を活用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行う。</p> <p>・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC, モバイル端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認する。</p> <p>・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更する。</p> <p>※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>・入居者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や入居者様ごとに合わせた個別ケアが実現できる。</p> <p>・入居者様を無駄に起こすことがなくなるため、入居者様の睡眠時間を確保できるようになる。</p> <p>・入居者様の睡眠時間確保できるようになれば、入居者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。</p> <p>・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 王寿會)

事業所名 (特別養護老人ホーム 王寿園)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		エスパシアシリーズ 離床CATCHⅢ	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月15日	20	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
【事業概要】 エスパシアシリーズ離床CATCHⅢを導入する事により、入居者の転倒・転落事故を減らし職員の負担軽減と業務効率向上を図る。			
【導入スケジュール】 令和3年12月1日購入 (契約) 予定。 令和3年12月15日導入及び機器説明 予定。			
【倫理面への配慮】 入居者及び御家族に機器の説明を行い、同意を得たうえで使用する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
現在、旧式のマット型の離床センサーを使用しているが、誤作動や故障が多く、入居者の安全確保と業務に支障が出ている。 起き上がり・端座位等入居者に合わせた通知を設定し、より正確な通知により転倒・転落事故ゼロを目標にする。(直接の効果) ヒヤリハットや事故報告などの記録業務を減らす事で介護時間の短縮を図る。(間接の効果)			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】 手動式のベッドから、電動ベッドに更新する事で職員の身体的負担軽減を図り (屈んだ姿勢でハンドルを回してベッドを上げ下げの作業。) 正確な検知・通知での的確な介助を行い、職員の精神的負担軽減と業務効率向上が図れる。			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
25 : 1	25 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）。	
<ul style="list-style-type: none"> ・起き上がり・端座位等入居者に合わせた通知を設定する。 ・センサーの反応をデータ化し、把握することで巡回・排泄介助スケジュールを作成する。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・入眠時、食事介助時のベッドの角度設定を、入居者に合わせマニュアルを作成する。 ・センサーの反応データをもとに、起床前の声掛け・トイレ案内を行う。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・起き上がり・端座位等入居者に合わせた通知を設定することで、入居者に合わせたタイミングで対応が可能になり、業務効率向上につながる。また、正確な通知が行われるため、転倒・転落事故を未然に防ぐことができる。 ・入眠時、食事介助時のベッドの角度設定を、入居者に合わせマニュアルを作成することで、食事介助時は、誤嚥を防ぎ。入眠時は、良眠して頂ける。これらは、職員の経験値に頼っていたが、デジタル表示で角度調整が可能の為、マニュアル作成しケアの均一化・質の向上が図れる。 ・巡回・排泄介助スケジュールを作成することで、不必要な訪室を減らし職員の負担を軽減させ、ケアの質を向上させる。 ・センサーの反応データをもとに、起床前の声掛け・トイレ案内を行うことで、眠りの質を良くし、しっかりと日中を過ごして頂ける。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 王寿會)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 王寿園)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		見守り支援システム「眠りSCAN」	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月15日	22	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

【事業概要】

見守りシステム導入により、居室での状況が見える化されることで介護業務の負担を軽減し、入居者の睡眠日誌で生活リズムを把握することで、ケアの質の向上を図る。

【導入スケジュール】

令和3年12月1日購入 (契約) 予定。
 令和3年12月15日導入及び機器説明 予定。

【倫理面への配慮】

入居者及び御家族に機器の説明を行い、同意を得たうえで使用する。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

夜間帯の見守り職員人数が少なく転倒リスクは、地域密着型より高いのが現状である。リアルタイムでの見守りを可能にし、無駄な訪室を減らすことで介護時間の短縮・看取りの方の見守りに使用する事で職員の精神的負担軽減を行い、離職率低下を目標とする。

起き上がり・離床を検知し、ベッドからの転落及び転倒事故の軽減を目標とする。
 入居者のケガを防ぐことで、健康維持と病院受診等の時間短縮を間接の軽減効果を目標とする。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

居室での「睡眠、覚醒、起き上がり、離床」が分かるので入居者の眠りを妨げないよう適切な時間に介助をすることで、職員の負担軽減につなげるとともに入居者の眠りの質を良くし、しっかりと日中を過ごして頂ける。
 呼吸数の推移を把握が出来るため、体調変化の早期発見・対応に期待できる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
25 : 1	25 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、夜間の排泄介助は一律に巡回し行っているが「眠りSCAN」を活用することで、入居者の覚醒のタイミングで排泄介助を行う。 上記の取り組みとして、入居者の睡眠データから睡眠リズムを割り出し巡回・排泄介助スケジュールを作成する。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・看取りの方に積極的に使用し心拍・呼吸数データを医師、看護師へ報告し。状態把握の資料として職員の情報共有を行う。 ・失禁してしまう方をリアルタイムでモニターし早期発見、ケアに活用する。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の巡回・排泄介助スケジュールを作成することで、不必要な排泄介助を削減し介護時間の短縮が期待できる。また、入居者の覚醒時に介助を行うことで、眠りの質を良くできる。 ・失禁してしまう方に活用することで、寝具や衣類の汚染などを未然に防ぎ職員の負担軽減し、入居者にも清潔に過ごして頂ける。 ・看取りの方に使用することで、状態把握を行い職員の精神的負担軽減につながる。また、御家族や嘱託医への細やかな報告ができる。 	

見守り機器の導入に伴う通信環境整備計画書

法人名 (社会福祉法人 清明福祉会)
 事業所名 (建国ビハークラ てんまん)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 1 / 2	
見守り機器の導入 (予定) 日		見守り機器の製品名	
令和3年10月1日		眠りスキャン	
通信環境整備時期 (予定)	※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年10月1日		令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要】			
眠りスキャンを導入するあたり、通信環境整備を実施する。 無線 LAN 接続、ベッドサイド端末との接続によりリアルタイムモニター機能を活用する。			
【整備スケジュール】			
施設内に Wi-Fi 通信設備設定を行う。			
【通信環境整備により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
無線 LAN 接続、ベッドサイド端末との接続により、夜間帯スタッフルーム内でもリアルタイムで利用者様の状況把握をモニターで確認できることで、介護職員の負担軽減となる。			
【通信環境整備により期待される効果等】			
利用者様の体調管理、行動を離れた場所で、モニターによりリアルタイムに把握できることで、職員人数が少ない夜間帯も介護職員の負担軽減となる。			

(注) ・構成図の写しを添付すること

- ・介護記録ソフトウェア、ウェアラブル端末、ゲートウェイ装置等を導入する場合は、見守り機器との連動が可能であることを示す資料 (パンフレット等) を添付すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制
介護・看護職員の人員配置 3.87:1	介護・看護職員の人員配置 3:1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
通信環境を整備することで、見守りセンサー、介護記録ソフト等の活用ができ、職員の記録方法の変更や、利用者の見守りが遠隔操作で出来ることで、人員体制の効率化が期待できる。	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
夜間帯、眠りスキャンを使用し、利用者の睡眠時間や睡眠状況、覚醒時間の把握を遠隔ですること、利用者の転倒転落事故を未然に防ぐことができる。 夜間帯に遠隔で利用者の行動を把握することで、夜勤者の休憩時間、巡視時間の変更をする。	
これらの取組により期待される効果等	
通信環境を整えることで、遠隔で利用者の状況把握ができ、夜勤者の休憩時間の確保、巡視時間、巡視方法の検討ができる。 通信環境を整えることで、介助中にタブレットを使用して記録できるなど業務の効率化が図れる。	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 長生福寿会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 二方の郷)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守り支援			HitomeQ ケアサポート (コニカミノルタ QOL ソリューションズ)		
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和4年2月1日	90	令和4年1月5日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで		
【事業概要及び導入スケジュール】					
<p><事業概要></p> <p>天井に取り付けた行動分析センサーで入居者の注意すべき行動を認識し、介護スタッフのiPhoneに起床・離床・転倒の分析結果を映像とともに通知する。転倒や転落時のエビデンス動画から原因の推測と対策検討を行うことで業務効率化とケア品質向上を図ることができる。介護スタッフ間の情報共有とケア記録に活用もできる。</p> <p><導入スケジュール></p> <p>交付決定後に発注し導入準備を進める。令和3年12月発注、令和4年1月施工、2月使用説明会実施後運用を開始する。</p>					
【倫理面への配慮】					
<p>製品は、居室内の利用者の方の危険行動につながる動作（起床、離床、転倒）にのみ反応し見守る機器であり、利用者の方の生活を常時監視するものではなく、また、身体拘束をすることなくプライバシーに十分配慮した製品である。導入時には、利用者・ご家族の方に導入機器の説明を実施し、同意を得た（同意書）うえで運用を開始していく。</p>					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】（3年間目処）					
<p>（介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等）</p> <p>情報共有化により会議時間削減、iPhoneによる記録時間と紙の削減を図り、介護の質の向上に時間を充て直接ケア業務の10%向上を進める。</p> <p>転倒時のエビデンスを取得し、事故防止策を講じることで転倒事故30%削減を目指す。</p> <p>不要な訪問を削減し、利用者の方の安眠化を図るとともに適切な訪問で事故の軽減につなげる。</p>					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
<p><利用者の居住環境の向上>センサー鳴動時に適切な対応を行い利用者の方の転倒を予防できる。</p> <p>不要な居室訪問をなくすことで夜間の睡眠を守り居住環境が向上する。</p> <p>離床にかかるデータの検証により、支援方法の見直しやサービスの効果的な提供を行う。</p> <p><介護スタッフの負担軽減>「映像を見て駆け付け」「スピーカーを通じての入居者との会話」運用により訪問業務の削減、最適化（フロアをまたいだ駆け付けが可能となる）ができる。</p> <p>都度 iPhone で情報連携ができ、申し送りなどの時間を削減できる。</p>					

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜間勤務体制 8名	夜間勤務体制 6名（25%の減） フロアをまたいだ駆け付けにより2ユニットで1名体制とする。
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
1フロア3ユニットの施設構造のため、現在、フロア2名で夜間勤務を行っている。 HitomeQ ケアサポートを導入することで離れた場所でも複数同時に、早期に映像確認ができるため、フロアをまたいだ駆け付けが可能になる。これにより、例えば、奇数階の介護職員を1名ずつ減らす形での運用が可能となる。これにより介護職員の勤務体制の見直しを行うことで他の時間帯の介護体制（入浴時間帯等）の効率化も図っていく。 iPhone から現場で直接ケア記録の入力を行うことで紙での記録を削減ができる。また、場所を移動してのケア記録の作成がなくなることで記録漏れやあいまいな記録をならないようにしていく。紙による報告がなくなることで施設全体の事務の軽減につながり、介護の質の向上に時間を割くことができる。	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
夜間の巡回回数：合計8回⇒4回（50%の減） 記録作成業務のタイミングを見直すことで、残業時間を一人当たり1日30分短縮する。 夜間以外では、介護職員の日中配置する人員を、利用者2人に対して職員1名程度としている。 現状から、下記の人員体制へ 介護職員：日中40人程度⇒36人（10%減） 利用者のケアの質の向上を目指す検討会を2ヶ月に1回開催して現場にフィードバックすることで、ケアの質の向上を図る。	
これらの取組により期待される効果等	
1時間に1回の夜間巡回の負担軽減により介護職員の精神的・身体的負担の軽減が図れる。 夜勤回数の減により休暇等の取得増につながる。 利用者の方の居室への訪問回数が減ることで安眠できる時間が増え利用者の方の満足度が上がる。 日中の見守りの負担軽減により、入浴介助など必要となるケアに人員を割くことができ利用者の方の満足度が上がる。 日中の空き時間が増えることで新人など経験年数の短い職員へのOJTへの取り組みを行う時間が取れることになり職員の能力向上につながる。	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人エール 西尾)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 三和の里)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム 「眠りスキャン」	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年9月1日	1	令和3年9月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
地域密着型介護老人福祉施設入所者介護 特別養護老人ホーム 現在、前29床のうち15床が眠りスキャン使用中。 今後、利用者の安否確認、健康状態の観察などを目的に全床での使用を計画している。 10月の導入を想定し、導入後に各部署の新人職員、途中入社職員対象に取り扱いの講習を開催予定。			
【倫理面への配慮】			
<ul style="list-style-type: none"> ・利用前のサービス担当者会議時に支援チームでアセスメント後、家族に利用理由を伝え使用同意を得てからの使用とする。 ・個室対応なため、夜間帯の訪室時にはプライバシー保護に配慮する。 			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・介護・看護職員が眠りスキャンの使用方法、情報収集についての知識を熟知し、チームで共有できる環境を作り、介護従事者の負担軽減を図る。 ・知り得たデータが使用利用者の課題改善のためのエビデンスとして活用できる。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤従事者の業務軽減・ストレス軽減を図る。 (覚醒時の排泄介助・室内での転倒リスク軽減等) ・新規利用者の生活のリズムを把握し、以後の個別支援計画のモニタリングに活用。 ・眠剤薬効の評価・課題となるBPSD(昼夜逆転・不眠等)の適切な対応。 ・看取り対象者や体調不良者の状態観察や早期発見。 上記課題のエビデンスとしての資料となる。			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人あやめ会)
 事業所名 (介護付き有料老人ホームつくし)
 サービス種別 (地域密着型特定施設入居者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		眠り SCAN	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年10月1日	29台	令和3年9月27日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
利用者様の睡眠の質の向上、及び導入する事により転倒転落の予防にもつながる。 令和3年9月中機材購入 3年9月中に業者よりロボットの使用説明を受け、設置を行う。 3年9月中にロボットの導入理由と使い方の説明会、研修を行う。 3年10月より運用開始			
【倫理面への配慮】			
機器を使用するにあたりご本人様、ご家族様へは利便性、安全性の説明を行い了承を頂く。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> 介護職員の負担を軽減させることによって職場環境の改善を図る。 利用者様の睡眠時間や質を把握し、改善に繋げるためのデータとして活用を行う。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> 介護職員の負担を軽減させることによって職場環境の改善を図り、職員の離職率 低減を図る。 センサーにより利用者の行動を常時把握することによって、転倒、転落等の リスクを事前に発見・軽減し、利用者が安心安全に生活できる環境を整える。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること(「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン(パイロット事業改訂版)」(厚生労働省老健

局・令和2年3月発行)を参考にすること)

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3 : 1	3 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
居室で過ごす利用者様の睡眠・覚醒・起き上がり・離床がわかるので利用者様の状態に合わせたケア・見守りが可能になります。特にスタッフの少ない夜間帯に役になれます。また介護ソフトと連動する事が出来る為、介護記録の登録の効率化も図る事が可能です。	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
利用者様の呼吸数、心拍数の長期変動を記録することが出来る為体調変化にも敏感にとらえる事が可能です。その為異常時の早期発見にも役立ちます。スタッフルームで全居室の利用者様の状態が把握できるため必要以上の巡回が必要なくなり休憩時間の確保にもつながります。また携帯電話にも通知する事が可能であり、職員が他利用者様対応中でスタッフルームに不在時でも利用者様の状態が把握でき、リスクの軽減に役立ちます。	
これらの取組により期待される効果等	
スタッフの負担が軽減されることもありますが、今まで見えていなかった利用者様の睡眠の質をデータとしてみる事で、睡眠の質の改善の取り組みに役立ちます。検討・提供・検証・改善といったサイクルを体験することで色々な分野でも活用ができるように人材育成にもつながります。 また利用者様には転倒や転落の危険が減る事と、睡眠の質が改善されることにより日中の体調も良くなり充実した日々を過ごす事が出来ます。心拍数や呼吸数も把握する事が出来る為万が一の緊急時の早期発見にも役立ちます。	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 瑞祥)
 事業所名 (特別養護老人ホーム ~~ピラ~~ ・オレンジ)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		エスパシアシリーズ (離床センサー内蔵) (パラマウント株式会社)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	96台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

・ベッドに内蔵されている離床CATCHIIIを導入することで、利用者様の起き上がりや離床などの予測し難い動作、行動を把握し、転落・転倒リスクを軽減するとともに、職員配置の少ない夜間帯の見守り業務の身体的、精神的負担軽減を図ることを目的とし、見守り支援ロボットを導入する。

【導入スケジュール】

- ・令和3年9月 申請
- ・令和3年12月 導入予定

【倫理面への配慮】

・ベッドを使用する際に、ご利用者様及びご家族へ介護機器の説明を行い、当該機器の有用性を理解していただく。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ①転落・転倒事故の減少
- ②介護職員の見守り業務の身体的・精神的負担の軽減

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- ①利用者様の動きに応じてセンサーがナースコールと連動するため、転倒・転落事故の減少が期待できる。
- ②介護職員が少ない夜間帯において必要時にナースコールと連動するため、見守り等の身体的・精神的負担軽減に繋がる。
- ③介護職員のモチベーションが向上することで人材の定着や確保に繋がる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
・介護、看護職員の人員配置 2.5 : 1	・介護、看護職員の人員配置 2.7 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>・加齢に伴い身体機能や認知機能が低下している利用者様は、自力での歩行が困難なことが多く、ベッドから離れる際、転落や転倒リスクが高い。そのため、職員は利用者様の睡眠状態や呼吸状態、予測し難い突然の起き上がりや立ち上がりなどの行動を常時把握し、転倒や転落リスクを低減させるための頻回な巡回及び行動の見守りを行う必要がある。又、夜間帯は人員配置が少なく、介護職員の身体的、精神的な負担はより大きくなる。離床CATCHⅢはベッドに内蔵されている荷重センサーがベッド上の荷重の変化を検知するため、立ち上がりや端坐位などの離床行動に変化があった際、ナースコールで知らせてくれるため、転倒・転落を事前に察知し、行動の見守りをリアルタイムに行うことで見守り業務の効率化を図ることができる。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>①巡回及び見守り体制の効率化により、転倒や転落のリスクを低減し、ベッドからの転落等による骨折や外傷を伴う事故を未然に防止し、利用者様及びご家族が安心して生活できるようにする。</p> <p>②夜間での少人数の職員配置で、巡回及び見守りの頻度、回数を減少し、業務の効率化を図ることで、その軽減した時間を活用し、利用者様と密に接することで質の高いケアを行うことができるようにし、職員のモチベーションの向上につなげる。</p> <p>③離床CATCHの通知履歴の活用により、利用者様の行動パターンを把握、分析することで、主体性や個別性を尊重し、科学的な介護を実践できる。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>①ベッドに内蔵されている離床CATCHⅢの導入により、利用者様の離床を常時把握して迅速な対応ができるため、転倒や転落事故を未然に防止する。</p> <p>②巡回及び見守りの頻度を減らし、職員を他の業務にあてることで配置人員を減らすとともに職員の身体的、精神的負担の軽減を図ることができる。</p> <p>③一人ひとりの利用者様の行動パターンを把握することで個別性を尊重した自立支援に繋がる。</p> <p>④業務の効率化や利用者様の満足度が高まり、職員のモチベーションが向上することで人材の定着や確保に期待ができる。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 元気寿会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 葉栗の郷)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		マットセンサー M-68・小電力型ワイヤレス接点 ECE5301・取付けアダプター	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年8月1日	5台	令和3年8月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>フットセンサーを転倒・転落の危険のある入居者の部屋にあるベッド足元へ設置し、入居者の足がフットセンサーに触れた際に、職員が駆けつけ転倒・転落の事故を回避できる。 導入予定日は令和3年8月1日を予定している。</p>			
【倫理面への配慮】			
入居者様及びご家族様に対し、使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
<p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>フットセンサーの活用により、入居者の行動を把握できるようになり、高齢者と言う事で生命の危険を回避できる。また、重大な事故を回避できることにより、職員の精神的負担も軽減できる。</p>			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<p>入居者の暮らしの場の中で、入居者が自由に寝起きできる環境の中で、入居者の様子を細目に部屋を確認するところから、フットセンサーの活用により、必要最低限の訪室で対応出来るようになり、その空いた時間で入居者の要望や希望に沿った支援ができると期待できる。</p>			

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
<p>転倒のリスクが高い入居者への対応が必要で、多職種や他部署など、多く職員を配置する必要があった。</p> <p>（日中：ユニット職員3人＋看護師、ケアマネ、相談員、事務員の職種の内1人が対応。夜間は職員1人で対応するが、1時間毎に訪室し、安全確認を行っている。）</p>	<p>多職種や他部署の職員が見守りを行うことが減り、ユニット職員だけで対応が可能となる。</p> <p>（日中：ユニット職員3人で対応が可能となる。多職種の協力がなくなる。夜間は職員1人は変わらないが、フットセンサーが鳴った際と2時間毎の訪室に変わり、訪室回数が半減）</p>
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>フットセンサーの活用により、今までより転倒のリスクが高い入居者に対して、訪室回数が1時間に1回程度の訪室だったのが、2時間やフットセンサーが鳴った際の訪室に変わり、訪室回数が半減以下に削減できる。また、ユニットの職員だけでなく、多職種の職員や事務員が見守りを行っていた状況からユニット職員だけで対応が可能となる。職員がその空いた時間で入居者の要望や希望に沿った支援ができる。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>転倒のリスクが高い入居者の方や低い入居者の方が混在する中で、今までは、転倒のリスクが高い入居者の方の見守りが必要なため、人員を多く確保しなければいけなかったが、フットセンサーの活用により、本人の行動が把握できるようになり、人員の確保が必要最低限で可能となる。そのため、削減となった時間や人員は、他の入居者へ手厚い支援ができるようになり、職員も休憩時間が確保、有給休暇の取得も見込まれる。また多職種で対応していたことが、ユニット職員で対応が可能となり、多職種の職員も自身の仕事に専念できる。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>フットセンサーの活用により、効率的な支援や休憩時間、有給休暇の取得など、入居者にとってもより良い支援を受けることが出来る、職員にとっても適切な処遇や精神的な負担が軽減できることにより、相乗効果でより良い介護サービスが提供できると期待できる。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 福寿園)
 事業所名 (特別養護老人ホーム ひまわりの街)
 サービス種別 (特別養護老人ホーム)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		HitomeQ ケアサポート (コニカミノルタ QOL ソリューションズ)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年2月28日	80	令和3年11月30日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

<事業概要>天井に取り付けた行動分析センサーで入居者の注意すべき行動を認識し、介護スタッフのスマートフォンに起床・離床・転倒の分析結果を映像とともに通知する。転倒や転落時のエビデンス動画から原因の推測と対策検討を行うことで業務効率化とケア品質向上を図ることができる。介護スタッフ間の情報共有とケア記録を実施する。<導入スケジュール>交付決定後に発注し導入準備を進める。2021年11月発注・施工、2月使用説明会実施後運用を開始する計画

【倫理面への配慮】

製品は、居室内の利用者の方の危険行動につながる動作(起床、離床、転倒)にのみ反応し見守る機器であり、利用者の方の生活を常時監視するものではなく、また、身体拘束をすることなくプライバシーに十分配慮した製品である。導入時には、利用者・ご家族の方に導入機器の説明を実施し、同意を得た(同意書)うえで運用を開始していく。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・転倒時のエビデンスを取得し、事故防止策を講じることで転倒事故30%削減を目指す。
- ・不要な訪室を削減し、介護従事者の心労の負担を軽減する。夜間については入居者の安眠化を図るとともに、適切な訪問で事故の軽減につなげる。
- ・情報共有化により会議時間削減、スマートフォンによる記録時間と紙の削減を図り、介護の質の向上に時間を充て直間比率業務の10%改善を進める。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

<利用者の居住環境の向上>センサー鳴動時に適切な対応を行い利用者の方の転倒を予防できる。不要な居室訪問をなくすことで夜間の睡眠を守り居住環境が向上する。
 離床にかかるデータの検証により、支援方法の見直しやサービスの効果的な提供を行う。
 <介護スタッフの負担軽減>「映像を見て駆け付け」「スピーカを通じての入居者との会話」運用により訪問業務の削減、最適化(フロアをまたいだ駆け付けが可能となる)ができる。
 都度スマートフォンで情報連携ができ、申し送りなどの時間を削減できる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
人員配置 2.0:1	初年度：2.1:1 3年計画：2.2:1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>【HitomeQ ケアサポートシステム】は、見守りセンサー・ICT機器・介護記録ソフトの3機能を具備したシステムである。本システムは、離れた場所でも複数同時に、早期に映像確認ができる。これにより1)フロアをまたいだ駆け付けが可能。2)見て駆け付けにより夜間定期巡回が減らせるので、1人あたりの実稼働時間を減少できる。これにより介護職員の勤務体制の見直しを行うことで、他の時間帯の介護体制（入浴時間帯等）の効率化も図っていく。</p> <p>ケア記録については、スマートフォンから現場で直接入力（音声入力も可能）を行うことで紙での記録を削減ができる。また、場所を移動してのケア記録の作成がなくなることで記録漏れやあいまいな記録をならないようにしていく。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪室、夜間巡回業務削減：(30%の減) ・ 記録作成業務のタイミングを見直すことで、残業時間を一人当たり1日30分短縮する。 ・ 利用者のケアの質の向上を目指す検討会を2ヶ月に1回開催して現場にフィードバックすることで、ケアの質の向上を図る。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間巡回の負担軽減により介護職員の精神的・身体的負担の軽減が図れる。 ・ 夜勤回数の減により休暇等の取得増につながる。 ・ 利用者の方の居室への訪問回数が減ることで安眠できる時間が増え利用者の方の満足度が上がる。 ・ 日中の見守りの負担軽減により、入浴介助など必要となるケアに人員を割くことができ利用者の方の満足度が上がる。 ・ 情報共有機能により施設全体の事務の軽減につながり、介護の質の向上に時間を割くことができる。 ・ 日中の空き時間が増えることで新人など経験年数の短い職員へのOJTへの取り組みを行う時間が取れることになり職員の能力向上につながる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人 ~~フジタ~~)
 事業所名 (介護老人保健施設フジタ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3/4・1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援システム		aams (株式会社バイオシルバー社製)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年9月1日	10セット	令和3年9月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>・事業概要</p> <p>当該見守り支援システムは、入所者様の状態・状況をリアルタイムに把握できることで職員の迅速な対応を可能にし、職員の業務負担軽減を図ります。また、ナースコールシステムとの連動にて更なる無駄な動きを削減します。人手不足の解消にもつながり、入所者様への質の高い介護サービスを提供します。</p> <p>・導入スケジュール</p> <p>令和3年6月初旬に2週間ほどデモ機を使用しており、採択された後、インフラ構築に着手、令和3年10月から正式に運用を開始する予定です。また導入決定後は職員への取り扱い説明研修を実施します。</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>・入所者様及びご家族様に対し、当該システムの使用目的・収集情報・効果を説明し、同意を得たうえで使用する。これにより得た情報は厳重な管理を図り、担当者会議等で使用することのみとする。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<p>・入所者様の転倒・転落等の事故防止及び削減 (3割削減)</p> <p>・入所者様の睡眠習慣・呼吸の変化など体調の変化を可視化することで、個別ケアによる生活サイクルの改善する (体調不良の早期発見)。</p> <p>・アラーム発生時に管理パソコンにて状態を確認することにより職員の無駄な訪室を減らせ、業務の効率化で離職率を低減する。</p> <p>・集中管理することにより、職員の休憩時間の確保ができる。</p> <p>・入所者様 (ご家族様) に対し、体調の変化など可視化されたデータを基に説明することにより施設の透明性及び信頼関係が構築できる。</p>			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			

- ・入所者様の睡眠・覚醒・離床・起上り・呼吸/心拍数をリアルに把握し、転倒・転落等の事故を防止する。（事故削減）
- ・入眠中またはナースコールが出来ない状況下でも見守りが可能であり、職員の業務負担の軽減となる。（アラートにて即座対応、不要な訪室削減）
- ・入所者様の睡眠/生活習慣のデータ収集により個々の入所者様へのケア改善、ご家族様への報告での信頼性の向上。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員数：50名 常勤換算数：45.9名	介護職員数：50名 常勤換算数：44.0名

見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）

- ・見守りセンサーを集中管理することで、従前は誰が訪室するか不明確であり、訪室のブッキングでの時間ロスの発生、または、遅れによる転倒転落事故が発生していたが、管理パソコンからの情報をフロア職員への確に伝え、指示することで無理無駄のない訪室対応ができる。
- ・合わせて、業務中に鳴るナースコールに対し、複数の職員が業務を中断することがなくなる。（職員一人の生産性が向上する）
- ・従前のセンサーシステムではナースコールは呼び出しのみであるため、訪室しないと入所者様の状態・状況が把握できなかつたが、管理パソコンにて状態・状況を確認し、適切な対応がスムーズにできる。（例えば、ケア職員かナース職員のどちらが訪室すべきかなど）
- ・従前のベッド離床センサー、床センサーは、入所者様の動きを感知するだけであったが、今回導入する見守りセンサーは、入所者様の睡眠・覚醒・起上り・呼吸/心拍数をデータ収集できる。蓄積されるデータで、その方の体調を時系列で把握することにより、質の高い個別ケアが可能となる。
- ・家族様に対し、入所者様の生活状況（夜間状態）をデータで提示することにより、現状を理解して頂けるとともに安心・信頼を得られる。
- ・夜間の定期ラウンドは5回あり、ラウンドとは別にナースコール（センサーも含む）による呼び出しも頻繁に発生している。その都度訪室しているが、今回の見守りセンサーでは管理パソコンで状況を確認できることから、複数のナースコールが同時に発生した時には、訪室の順位を判断して、必要な入所者様へ即座に対応できる。（夜間帯においては、0.1人ぐらい削減できる）

利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

- ・職員の一日の移動量（歩行数）が減り、職員の移動時間を削減できることで、入所者様へのケア時間を増やせる。またケア記録時間等の間接業務に当てることで残業時間を削減できる。
- ・見守りセンサーで夜間の睡眠状態を可視化することで、個別ケアの計画に活かせる。
- ・夜間帯のナースコールによる呼び出しで従前は訪室しなければ把握できないが、導入後は管理パソコン上で入所者様の状態を把握できることから負担が軽減される。
- ・夜間5名体制であるが、負担軽減により仮眠、休憩を必ず取れる。

これらの取組により期待される効果等

- ・入所者様の転倒・転落等の事故防止と削減。
- ・職員の移動量の削減により、身体的負担軽減と共に職員の離職防止。
- ・介護ロボット・ICTを導入することで、働きやすい環境を整備している施設として、入職希望者への広告となる。(職員採用ツール)
- ・見守りセンサーで入所者様一人一人の状態を把握することで入所者様に合ったケア計画を立て、入所者様へ質の高いケアサービスを提供し、施設での生活を向上させる。
- ・職員の訪室回数の削減が出来る。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人愛知慈恵会)
 事業所名 (一宮市萩の里特別養護老人ホーム)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		エスパシアシリーズ(KA-N1570F)パラマウントベッド社	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月中	5台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

※事業概要

離床CATCH内蔵の介護ベッド「エスパシア」を導入し、夜間帯におけるご利用者の転倒事故防止と見守り業務の効率化を図る。

※導入スケジュール

令和3年11月頃発注

令和3年12月末までに納品、使用開始

【倫理面への配慮】

ご利用者及びご家族に対しベッド機能の説明を行い同意を頂く。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ① 転倒、転落事故の予防及び現象
- ② 介護職員の身体的・心的負担の軽減

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- ① ご利用者の状態(起き上がり、端座位、離床等)を検知することが可能となり、転倒・転落事故の予防が期待できる。
- ② ご利用者の状態を感知してナースコールが鳴るため、あらかじめ対応することができ、業務に対する身体的・心的負担の軽減が期待できる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 来光会)
 事業所名 (ケアハウス ユーハウスいわと)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りシステム		眠りスキャン	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月 1日	5台	令和3年12月 1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>事業概要 見守り支援システム「眠りSCAN」を使用することにより、利用者様の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）をリアルタイムで可視化し、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。また、状況に合わせてのケアを行うことにより、利用者様に提供するケアの質の向上を図る。特に、夜間帯の入居者様の転倒事故防止と見守り業務の効率化を図る。</p> <p>導入スケジュール 補助金交付決定後、速やかに導入する。（令和3年度 12月導入予定）</p>			
【倫理面への配慮】			
ご利用者様及びご家族様に対し使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】（3年間目処） （転倒事故の減少、介護職員の身体的・心理的負担の軽減等）			
<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムに可視化される利用者様の睡眠状況に合わせ、ケアを行う。 起き上がる前に覚醒したことが可視化されるためリスク予知ができ早期対応ができる。 リアルタイムモニターにて入居者様の状況を把握することにより、夜勤職員の負担を軽減できる。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> 利用者様の睡眠・呼吸・心拍状況の把握。 利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現。 職員の精神的・身体的な負担の軽減。 転倒のリスクがある方の行動把握。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
10 : 1	10 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>・夜間巡視の際に5階から1階まで2時間おきに行うが、眠りスキンの導入により、リスクの高い方やトイレの覚醒に合わせて、優先に行うことにより、職員の移動時間が減り、業務効率が上がる。</p> <p>・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、夜勤者がiPadかスマートフォンを携帯し動きのあった入居者様の情報が入り、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進する。</p> <p>現状) ①巡視後にセンサーが鳴り訪室する回数、1回の夜勤で5回以上転倒リスクの高い方のため、急いで駆け付けている ②センサーが鳴ってから訪室で前もって動くことは予測不可能</p> <p>取組後) ①1回の夜勤での巡視以外の訪室、座位なのか、離床したのかが可視化されるため、優先順位を考えて、訪室することができる ②リスクの高い方の情報がタイムリーにわかるため、予測して動くことができる</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>・ケアハウスのため、お部屋でどのように過ごしているかは不明な方が多い。要介護度に変化がある方の日中の覚醒状態、離床状態等を把握することで、生活リズムを把握できる。</p> <p>・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更する。</p> <p>※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>・通知機能を活用し、入居者様の離床回数をもとに大まかな排泄回数、日中、夜間の睡眠状況を把握することで、日中の覚醒の促しや失禁予防のための声掛けに活用でき、現状の生活が維持できるように予測した対応が可能となる。</p> <p>・転倒リスクの高い方だけでなく、日中の入眠している方を把握し、日中の活動を増やすことで、夜間の良質な睡眠をしていただき、認知症進行予防、眠前の軽減につなげていく。</p> <p>・トイレの介助が必要な方に関しては、入居者様を無駄に起こすことがなくなるため、入居者様の睡眠時間を確保できるようになる。</p> <p>・入居者様の睡眠時間確保できるようになれば、入居者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。</p> <p>・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。</p> <p>・転倒のリスクの予兆を検知できることで早く訪室でき、転倒予防に繋がる。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 千寿会)
 事業所名 (ザ・ストーリー東海)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		介護支援システム「ライブコネクト」	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年10月5日	29セット	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

ケアステーション、職員が持参するスマートフォンで利用者のバイタルをもとに安否確認をおこない、接触機会を減らしながら感染症防止を両立させる。離床やトイレうずくまりなどの通知も得ることで重大事故の防止を実現する。

メーカーであるZ-Worksから職員へのシステム説明を予定している。(導入のひと月前)
 メーカー担当者を含め導入後の業務変革、通知の種類や通知後のケアなど定期的な活用委員会を開催する。(2ヶ月に一度程度)

【倫理面への配慮】

システムにはカメラが含まれていないため、利用者のプライバシーを尊重でき、リラックスして過ごしていただける。センサーはマットレスの下など、普段目につかない箇所へ設置される。身体拘束にあたる離床マットセンサーを利用しないことでより利用者へ配慮ができる。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

特に夜間における接触機会の減少(安眠を妨げず、夜間せん妄などひきおこさない)による介護職員の移動距離の短縮(3割軽減目標)

室温監視による熱中症防止

ターミナルケアの対応改善(特別警戒モードの活用で迅速な対応の実現・データによるご家族への説明)

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

システムによりリアルタイムでの介護現場の可視化および利用者の異常通知により、これまで介護職員が実際に移動して確認する以外検知できなかったことが把握できる。
また、利用者のバイタルデータ（心拍数・呼吸数・覚醒回数）や生活データ（トイレの利用状況・夜間行動の有無）が蓄積されることで、転倒リスクの高い利用者、体調の変化に気づくことで、事前に対策が可能となり、ケアの質の向上につながる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健課・令和2年3月発行）を参考にする）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
10:1(夜間体制)	14.5 : 1 (夜間体制)

見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）

利用者の状況や異常通知は、ケアステーションに設置のモニターで常に表示され、かつ職員がもつスマートフォンでも確認ができる。これにより、あらたな人員体制でも利用者の行動の把握が可能になる。

利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

夜間のケア作業において、事前に利用者の睡眠状況を確認しケアを行う。安眠されている利用者を無理に起こさないようにすることで、夜間の安定した睡眠と、日中の活動を促す。
浅い睡眠や覚醒状態にある利用者に対して、トイレ誘導やオムツ交換を行うことで夜間せん妄を極力引き起こさないようにする。
介護施設の全体の状況はモニターで一括表示されており、職員は安心して休憩をとることができる。

これらの取組により期待される効果等

介護職員の負担が軽減されることで、より余裕をもって利用者に向き合うことができる。介護職員にしかできない利用者とのコミュニケーションなどにより時間をかけることで、利用者に対

するケアの質が向上できる。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 祖父江愛照会)
 事業所名 (ベストライフ祖父江)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		『ライフリズムナビ+Dr.』(エコナビスタ)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	100	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>○事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドに設置したセンサーで体動や睡眠の質、呼吸、心拍を感知する。 ・呼吸、心拍、体動、無呼吸回数、睡眠深度、中途覚醒のデータを随時グラフ・一覧で確認できる。 ・収集したデータから最適なケアを行うことができる。 <p>○導入スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金交付決定後、速やかに導入する。 			
【倫理面への配慮】			
ご利用者及びご家族様に対して使用目的の説明を行い、十分ご理解をいただき同意を得た上で適切に使用します。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の巡回現在平均5回実施している回数を3回の実施にすることで職員の肉体的精神的負担の軽減。 ・重複する記録をつけることがなくなる為、記録業務の時間を3時間から30分に改善する。 ・センサーを活用し、夜間帯の事故報告・ヒヤリハットの報告を30%削減する。 ・睡眠データ、バイタル情報等を見える化し、見守りデータを分析し、無駄な声掛け等を減らし、利用者の安眠確保。 ・呼吸状況の確認が出来るため、看取り介護の利用者の異変に早急に対応する。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・転倒事故、職員の(特に夜間帯)記録に掛かる時間を削減する。 ・職員の負担軽減と入居者の事故防止を未然に防ぐためのデータ活用を推進する。 ※夜間の眠りの浅い状態の体動をPCやモバイル端末に音と画面で通知することにより迅速な対応ができる。 			

・呼吸や心拍のデータを確認できることから看取り介護中の入所者の異常の早期発見を行う。これらのデータは介護記録ソフト「ほのぼの」と自動連携するので職員の記録の負担軽減にも繋がる。すべての入居者ご本人とご家族の安心安全の為、職員の負担軽減という観点から全ての入所者を同じ環境にし、記録管理とバイタル等のデータから入居者1人1人の生活の改善に活用でき、センサーを活用することで夜間帯における利用者対応の優先順位や緊急度の把握し適切なケアを実現できる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3 : 1	2.8 : 1

見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）

「ライフリズムナビ+Dr.」の導入により、入所者の睡眠時の体動等がモバイル端末に通知される為、職員の巡回の数を減らすことが可能である。
 ベッドに設置するセンサーとカメラを設置することで、別の入所者の介助中であっても音声により把握が可能となり、素早く駆け付けることができる。
 また、モニターにて確認可能である為、素早く、緊急応援体制を組むことが可能となる。
 上記により、現在施設内で使用している記録ソフトと連動することで、センサー作動時等、自動で記録される為、職員の記録業務に係る時間の削減も望める。

利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

利用者への効果

自立支援：ADL、認知機能、BPSD、QOL、自立した排泄の回数

ケアの質の向上：ヒヤリハット、事故報告の件数

職員への効果

業務の変化：オムツ・リネン交換の回数、夜勤職員による訪室回数・記録の時間

負担軽減：活動量の変化、ストレス、心理的負担、業務時間

これらの取組により期待される効果等

見守りシステムを使用することで、特に夜間の職員が少ない時間帯で効果を発揮し、浅い眠りによる体動をパソコンやモバイル端末で確認し、駆け付け事故防止ができる。
 排泄パターンの分析により、入所者の排泄タイミングを予見し、事前の排泄ケアを行うことができる。看取り介護中の入所者であれば、呼吸・脈拍のデータから、異常の早期発見につながる事が期待できる。それぞれが自動で記録される為、記録にかかっていた時間の削減が期待できるとともに、正確な情報共有をすることができる。

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人社団喜峰会)
 事業所名 (ショートステイけやきが丘)
 サービス種別 (短期入所生活介護 (単独型))

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守り支援			見守り支援システム「眠り SCAN」		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年11月20日	40台	令和3年11月20日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	

【事業概要及び導入スケジュール】

事業概要：

見守り支援システム「眠り SCAN」を導入することにより、利用者様の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・子乳数・心拍数）をリアルタイム確認できることにより、業務の効率化だけでなく、介護職員の負担（特に夜勤）を軽減することができる。また利用者様に状態に合わせたケアを行うことにより、ケアの質を向上することができる。

導入助スケジュール：

補助金交付決定後、速やかに導入する。（令和3年11月に導入予定）

【倫理面への配慮】

ご利用者様及びご家族様へ対して使用目的の説明を行い、ご理解をいただいたうえで適切に使用するものとする。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】（3年間目処）

（介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等）

リアルタイムでご利用者様の状況を確認できることにより、個別ケアを充実させることができる。また、ご利用者様の夜間の睡眠を妨げないように介護を提供することができる。

リアルタイムに状態を確認できるため、夜勤職員の業務の効率化だけでなく、精神的及び身体的な負担を軽減させることを目標とする。

ご利用者様の動きに応じてセンサーがナースコールと連動するため、転倒・転落事故の減少が期待できる。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

利用者様の睡眠・呼吸・心拍数の状態の把握
 利用者様の睡眠状態に合わせた個別ケアの充実
 介護職員の精神的及び身体的負担の軽減

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1.9:1	2.3:1

見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）

介護記録システムと連携することにより、全記録を手入力にて記載していたが、今後は自動的に反映されるため、介護記録にかかる時間を削減することができる。また、夜間の利用者の状況をリアルタイムで確認することができるため、巡視に係る時間を削減することができる。
 記録業務を削減や巡視業務の削減により業務を効率的に遂行することにより、1.9:1から2.3:1の人員配置を目指す。

利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

ご利用者様の睡眠パターンを確認することにより、睡眠を妨げずに状態確認をすることができたり、個別ケアを実現することができる。また、転倒・転落予防にも繋がる。
 現在、夜勤職員の巡視を2時間に一度行っているため、休憩時間の確保や介護記録の入力業務などが確保に苦勞することが多い。リアルタイムにご利用者様の状態を確認できることにより、夜勤職員の休憩時間の確保することができる。また精神的にも負担を軽減することができる。

これらの取組により期待される効果等

介護職員の精神的及び身体的負担の軽減
 介護職員の離職の軽減
 ご利用者様への個別ケアの充実

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会医療法人 大雄会)
 事業所名 (老人保健施設 アウン)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り介護ロボット aams 介護セット (JC-19) B018-AAMSKS	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	6セット	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>【事業概要】 上記機器を導入し、これまで詳細な把握が困難であった、看取り対応対象利用者や新規入所者、精神面における評価が必要な利用者等の睡眠や生活リズム、生体情報を把握することで、職員の負担軽減と業務の効率化、個別のケアの質向上に繋げていく。</p> <p>【導入スケジュール】 令和3年9月 交付決定、 令和3年10月 施設内通信環境工事開始、 令和3年11月 発注、令和3年12月 購入後、使用方法等周知を図り速やかに運用開始。</p>			
【倫理面への配慮】			
利用者様への非接触・非拘束等の扱いの為、人権(尊厳)への配慮。 また、カメラ等の使用もないため、プライバシーの侵害への配慮。 また蓄積されたデータの取り扱いには厳重に注意していく。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
上記機器を導入する事で、看取り対応利用者等、入所者への対応の迅速化、職員への時間短縮、精神的・肉体的ストレスの軽減ができ円滑な見守りと状態観察が可能になる。 業務負担軽減による職員の意欲向上と離職率の低下を図る。また個別ケアの質を上げると同時に多くの利用者へ対応できる体制作りを構築する。			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
利用者の急な状態変化がアラート通知され、また毎日の睡眠状態の記録を残すことも出来る為、体調・生活状況の管理を強化でき、個別のケアが実現できる。 またそのデータを元に、日々の状況をご家族様へ報告する事も可能となる。 またモニターで状態確認ができる為、特に夜間帯においてフロアをまたいでの状態の共有化と緊急時の迅速な対応、訪室業務の負担軽減、介護者のストレス軽減にも繋がる。			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1:1	0.75:1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>本機器を導入し、施設内無線LAN環境を整えた上で介護システムと連動させることによって、職員がどこにいても対象利用者の生体情報を把握する事が出来る為、精神面や身体的に生体情報を得るべき利用者を使用する。</p> <p>また、他フロアで業務を行っている職員も介護システムを通じ対象利用者の状況が把握できる為、他フロアの他職種と対象利用者の情報を共有し、緊急時等に関し必要に応じ他フロアの応援体制を構築する。</p> <p>精神的・身体的観察が必要な利用者へ使用し、対象者から離れた場所からの観察を行う。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・対象利用者を使用する事により、頻回な訪室や過度な身体接触を避ける事が出来る為、感染予防対策に繋げると共に対象利用者の安定した睡眠の阻害を防止する。 ・持ち運び可能な端末で対象利用者の状態を把握・見守りする事により、それに係っていた時間を他利用者の介助に充当する。 ・夜勤時間帯の勤務等において、巡視時以外でも対象利用者の生体確認が可能になる為、職員の精神的・身体的負担の軽減に繋げる。 ・他フロアの職員も対象者の観察や見守りが可能になることから、休憩時間の組み合わせや選択肢を増やし多様な休憩時間の確保に繋げる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の利用者の状態像に関する情報共有が図れ、統一したケアが提供できる。 ・対象利用者に対して、頻回な訪室や身体接触を避ける事が出来る為、対象利用者の安定した睡眠を阻害することを防止できる。 ・夜勤時間帯等において、巡視時以外でも対象利用者の生体確認が可能になる為、職員の精神的・身体的負担の軽減に繋がる ・緊急時等においても迅速な対応が可能になると共に、ご家族への適切な情報提供に繋がる。 ・職員の離職防止 ・ご家族の安心感。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人慈雲福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホームウエルコートみづほ)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		次世代予測型見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年2月20日	10台	令和4年2月20日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
新たな見守り支援ロボットの導入により、利用者の状況を動画で把握し、巡回対応や事故の要因分析など、業務の効率化を図り、介護従事者の負担軽減する。 令和4年2月頃導入 1月中旬 使用勉強会 1月下旬から2月初旬 設置工事 設置後テスト試行 2月中旬使用開始 毎月 ICT 委員会にて経過報告			
【倫理面への配慮】			
利用者もしくは家族にシステム使用目的について説明し、書面にて同意を得た上で導入取得した情報は厳重に管理する			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
身体状況、認知状況によりナースコール発信できない入所者の必要サインにリンクした設定(起き上がり、端座位、離床、入退室等)で見守り支援を行うことにより、不必要な訪室の削減、事故のリスク軽減、事故時の動画でのデータ分析(要因分析)で、よりよい状況に合わせたケアの実現を可能にする。 利用者本来の能力の把握・原因対策・立案を行い、利用者の睡眠状況が改善することで、特に夜間介護従事者の業務負担軽減を目標とする。			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・身体状況、認知状況に合わせたサイン対応による転落、転倒事故のリスク軽減。 ・事故発生時の状況をデータチェックすることで事故要因を把握しケアプランに活かす。家族への説明時にも活用し安心へつなげる。 ・不必要な訪室削減により入所者の睡眠状態を改善。他見守り支援ロボットで睡眠状態をデータ分析し、記録システムと連携することで夜間巡回業務における肉体的・精神的負担を軽減。 ・記録システムと連携することで記録時間の削減 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること(「介護サービ

ス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3:1	3:1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>端末をスマートフォンを導入し、記録も行えるようにする。 記録システムとの連携により、記録時間の削減。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>起き上がり、端座位、離床、入退室等見守り支援を行うことにより、不必要な訪室の削減、事故のリスク軽減、事故時の動画でのデータ分析（要因分析）で、よりよい状況に合わせたケアの実現を可能にする。 利用者本来の能力の把握・原因対策・立案を行い、利用者の睡眠状況が改善することで、特に夜間介護従事者の業務負担軽減を目標とする。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>身体状況、認知状況に合わせたサイン対応による転落、転倒事故のリスク軽減。 事故発生時の状況をデータチェックすることで事故要因を把握し、家族への説明時にも活用し安心へとつなげる。 不必要な訪室削減により入所者の睡眠状態を改善。他見守り支援ロボットで睡眠状態をデータ分析し、記録システムと連携することで夜間巡回業務における肉体的・精神的負担を軽減。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 永能会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム きらめきみよし)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		眠り SCAN	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	10	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>事業概要 見守り支援システム「眠り SCAN」を使用することにより、利用者様の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）をリアルタイムで可視化し、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。また、状況に合わせてのケアを行うことにより、利用者様に提供するケアの質の向上を図る。</p> <p>導入スケジュール 補助金交付決定後、速やかに導入する。（令和3年度 12月導入予定）</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>ご利用者様及びご家族様に対し使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用する。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムに可視化される利用者様の睡眠状況に合わせ、ケアを行う。 ご利用者様の夜間の睡眠を妨げないよう介護を提供する リアルタイムモニターにて入居者様の状況を把握することにより、夜勤職員の負担を軽減をさせる。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> 利用者様の睡眠・呼吸・心拍状況の把握。 利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現。 職員の業務の効率化及び身体的な負担の軽減。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
12名	12名（夜勤者人数変わらない為）
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none">・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。・「眠りSCAN」のリアルタイムモニター、通知機能を活用し、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視（現状3時間に1回）」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進する。 ※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。 <p>余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行う。・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC、モバイル端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認する。・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更する。 ※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none">・入居者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や入居者様ごとに合わせた個別ケアが実現できる。・入居者様を無駄に起こすことがなくなるため、入居者様の睡眠時間を確保できるようになる。・入居者様の睡眠時間確保できるようになれば、入居者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 尾張健友福祉会)

事業所名 (特別養護老人ホーム・ちあき)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション			見守りセンサー「眠りSCAN」 (パラマウントベッド株式会社)		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年12月6日	2台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	
【事業概要及び導入スケジュール】					
【事業概要】 当該機器の導入により、入所者の睡眠リズムの把握、及び見守り業務の効率化、転倒事故の防止のために活用し、介護職員の心理的・身体的負担の軽減を図る。					
【導入スケジュール】 交付決定後に発注・導入する。導入前に業者による取扱説明を持つ。					
【倫理面への配慮】 導入対象となる入所者・家族に対し、見守りセンサーの目的・機能について説明し同意を得る。					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド上の状態・動作を把握し早期対応に繋げることで、転倒転落等の事故発生を防ぐ。 ・安定している入所者への居室訪問の回数を減らし、夜勤者の業務負担を軽減する。 ・夜間・睡眠中の情報を蓄積し、昼間の活動やケア方法の改善に活かす。 					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の夜間の転倒転落事故を防ぎ、健康な生活を維持できる。 ・夜勤従事者の看取り期入所者への状態把握のために活用し、心理的負担を軽減できる。 ・夜勤従事者の居室訪問の回数を減らし、身体的負担を軽減できる。 ・夜間・睡眠中の情報蓄積から分析へ活用し、昼間の活動やケア方法の見直し、その後の効果測定などに活かせる。 					

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員配置必要数(入所者対比) 1.95 : 1	介護職員配置必要数(入所者対比) 1.90 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の状態変化について、見守りセンサーで感知し、モバイル端末(スマホ)の画面でリアルタイムに一括して把握できるようにする。この機能を活用して、訪室回数を減らす。従来は、夜間(17時～翌日8時)での訪室を1時間に1回ずつ行なっているところ(15回)、センサー設置する居室においては半分(8回程度)に減らす。 ・訪室回数を減らして生じた時間を、他の入所者の介助等を行なう時間に充てる。 ・入所者の呼吸数・心拍数などの変化の感知されたデータを、連携する介護記録システムに記録・集積できるようにし、記録入力的时间・手間を削減する。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の呼吸数・心拍数などの情報から急変を把握しやすくし、入所者にとっても職員にとっても安心・安全な介護の向上につなげる。 ・感知されたデータを、連携する介護記録システムに記録・集積できるようにし、職員の記録入力業務の負担を軽減する。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・入所者がトイレ行動を始める場合に、その動きを把握しタイミングよく誘導・介助できるようになる。職員の負担軽減、業務効率化につなげる。 ・夜間の訪室回数を減らすことで、入所者の中途覚醒を減らし、生活サイクルの昼夜逆転の防止・解消に資することができる。入所者の不眠時の対応を減らし、職員の負担軽減、業務効率化につなげる。 ・業務負荷を減らし、介護職員の残業削減、離職防止につなげる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人寿宝会)

事業所名 (特別養護老人ホーム一見)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム「眠りSCAN」 (パラマウントベッド株式会社製)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月5日	30 10台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>【事業概要】 入居者様の睡眠、覚醒、呼吸数や心拍数の状況をリアルタイムで把握できるため、ベッドからの転倒や転落事故の減少、介護スタッフの見守り業務の負担軽減を図る。</p> <p>また一定期間のデータを解析することで、入居者様の生活リズムを把握し、ケアの質の向上を目指す。</p> <p>【導入スケジュール】 交付決定後、速やかに導入 (令和3年12月導入予定)</p> <p>以降も使用状況の確認を行い、研修等の実施を含め、適正な運用を図る。</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>入居者様、ご家族へ使用目的の説明を行い、同意を得る。</p> <p>また得られたデータや情報は個人情報として取扱に注意する。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<p>見守り業務(特に夜間帯)の効率化を図り職員の身体的、精神的な負担の軽減を図る。現状、夜間は基本的に定時での巡視であるが、眠りSCANの導入により覚醒状態を確認しながら、夜間の排泄介助や巡視を行い、巡視回数の見直しを行う。入居者様の睡眠の確保、適切なタイミングでの援助による満足感につなげていく。</p> <p>・覚醒、起き上がり、離床と段階を選んでお知らせ機能を設定できるため、リアルタイムで状況を把握する。動き出してからでなく早めに対応することで、ベッドからの転落事故等の減少を目指す。</p>			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<p>・夜間の巡視、排泄介助を入居者様の状況に合わせて行うことで、見守り業務の見直しができ、入居者様の安眠の確保、職員の負担軽減が図れる。</p> <p>・入居者様の状況にあったタイミングでの介護が可能になることで介護に対する協力が得やすく、職員の精神的ストレスの軽減と1回あたりの介助にかかる時間の短縮ができる。</p> <p>・居室内でベッドからの転倒転落等の事故の減少により、職員の負担感の軽減を図る。</p> <p>(事故への精神的な負担だけでなく、事故後の対応、事故報告書の作成等にかかる時間の減少)</p> <p>また事故の減少によって入居者様の身体的、精神的な苦痛の軽減、またご家族の安心感につなげていく。</p>			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.5 : 1	2.6 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・従来型特養であるため、入居者様の生活単位（1フロア）が35名前後となっている。スタッフルームや食堂から遠い居室をご利用されている方の居室内での様子の把握が困難。眠りSCANの設置を行うことで、職員の訪室（巡視）回数の見直し、見守り業務にかかる時間の業務改善を行う。 ・事故リスクの高い方への設置を行い、ベッド上での様子を入居者様の状況に合わせたタイミングでお知らせ機能の設定をすることで、適切なタイミングでの介助を行い、ベッドからの転倒、転落事故の減少を図る。事故が減少することで事故対応や事故報告書の作成等の時間の削減につなげていく。 <p>上記業務改善により時間の調整ができれば、その他の業務時間も見直しを行い、全体の人員体制の効率化を図る</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の生活リズムの把握を行い、適切なタイミングでの対応をする。 ・入居者様の状況に応じて夜間の巡視回数を見直すことができ、夜間の業務負担を軽減できる。 ・夜間の睡眠、覚醒状況をリアルタイムで可視化し、事故の予防につなげる。 ・呼吸状態や心拍などの状況の把握をし、入居者様の身体状況の変化に早めに気づき、対応することにより重度化の予防を図る。（特にご自分で要望がうまく伝えられない方） 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守り業務の効率化により、巡視等にかかる時間の短縮が見込まれ、その他の業務への取組が行いやすくなる。 ・入居者様にとって適切なタイミングでの対応ができることで、入居者様の満足感も得られる。 またそれにともない、入居者様の介護に対する協力が得やすくなる。 介護に対する拒否が少なくなることで、職員の精神的なストレスが軽減できる。 ・事故の減少により入居者様、ご家族、職員の精神的、身体的な負担軽減できる。 ・夜間帯の時間のゆとりは精神的なゆとりにつながり、ミスやストレスの軽減につながる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人さくら福祉事業会)

事業所名 (特別養護老人ホームさくらレジデンス)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守りシステム			見守り支援システム「眠りSCAN」		
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年11月1日	24	令和3年10月1日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	
【事業概要及び導入スケジュール】					
当機器の導入にて、夜間帯の見守り業務の効率化、設置利用者の睡眠行動の把握を行い、職員の心理的・身体的負担軽減を図る。					
【導入スケジュール】					
令和3年8月 補助金申請					
令和3年9月 交付決定後、発注					
令和3年10月 導入					
【倫理面への配慮】					
機器の使用目的、安全性、効果等について利用者及び家族に説明をする。					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)					
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)					
利用者の睡眠や動作、呼吸状態をリアルタイムでモニタリングし、一人ひとりの睡眠リズムを把握する。科学的根拠に基づいた問題の把握、それに対する対策及び計画の立案を行う。また、職員の心理的・身体的負担の軽減を目標とする。					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の睡眠リズムの把握 ・夜間時の睡眠、覚醒時間を把握し生活リズムを整える ・転倒や転落リスクの軽減 ・職員の心理的、身体的負担軽減 					

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
見守り巡回を行う職員 2名	見守り巡回を行う職員 1名
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット活用のための委員会を設置。2ヶ月に1回開催し介護ロボットの使用状況や効果などを検証、現場へのフィードバックを行う。 ・担当者を設置し、職員がいつでも介護ロボットの活用方法などを相談できるようにする。 ・利用者様の身体状況（呼吸数・心拍数）・状況（臥床・起き上がり・離床）を可視化・一覧化することで、一目で利用者様の現状を把握する。利用者の状態はアイコンの色で判別できるようにする。また、異常時にはアラームを発報することですぐに対応できるようにする。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット活用による効率化で、残業時間を一人当たり1日30分短縮する。 ・利用者のケアの質の向上を目指す委員会を設置し、2ヶ月に1回開催して現場にフィードバックすることで、ケアの質の向上を図る。 ・睡眠状況を測定・グラフ化し、睡眠のリズムを把握することで睡眠を妨げることのないように利用者様のケアを行う。また、睡眠導入剤の使用する時間の検証など睡眠の質を向上させるためのケアを行う。 ・「睡眠状態が覚醒になった際に訪室する」等のルールを策定し、巡視業務の効率化を行う。 ・タブレットやスマートフォン等、モバイル端末で状態を確認することで移動時間の削減を図る。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの質が向上し利用者様の満足度が向上する。 ・職員に余裕が生まれモチベーションが向上する。 ・利用者様の睡眠、呼吸数、心拍状況の把握。 ・利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現。 ・睡眠の質を上げることで、日中の活動の質が向上する。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人鉄友会)
 事業所名 (介護老人保健施設さくらの里)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守りシステム			エスパシアシリーズ (パラマウントベッド (株) 製)		
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年11月1日	2	令和3年10月1日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	
【事業概要及び導入スケジュール】					
ベッド内蔵離床センサー (離床CATCH) を使用し、利用者様の転倒及び転落事故防止と見守り業務の効率化を図る					
【導入スケジュール】					
令和3年8月 補助金申請					
令和3年9月 交付決定後、発注					
令和3年10月 導入					
【倫理面への配慮】					
当ベッドを使用対象利用者本人に対し、説明をしたうえで使用を開始する					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)					
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)					
利用者の転倒、転落事故の減少。 職員の身体的精神的負担の軽減 既設のインカムにベッドからの離床音声が流れることで、現場に一番近い職員が駆けつけることができ、転倒や転落リスクの軽減及び職員の導線の効率化を図ることができる。					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
利用者の特性や体格に合わせた的確なセンサーの設定を行うことで、正確な感知につながり、転倒等のリスク軽減に繋げる。センサー感知はナースコールと連動し、インカムから情報を得ることができるため、職員の見守り等の負担軽減に繋げる。					

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
見守り巡回を行う職員 4名	見守り巡回を行う職員 1名
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット活用のための委員会を設置。2ヶ月に1回開催し介護ロボットの使用状況や効果などを検証、現場へのフィードバックを行う。 ・担当者を設置し、職員がいつでも介護ロボットの活用方法などを相談できるようにする。 ・センサーを起き上がり時・離床時など利用者様の動向に合わせて適切に設定し、正確にナースコールと連動させることで、人員を効率的に活用する。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット活用による効率化で、残業時間を一人当たり1日30分短縮する。 ・利用者のケアの質の向上を目指す委員会を設置し、2ヶ月に1回開催して現場にフィードバックすることで、ケアの質の向上を図る。 ・利用者様の状態に合わせて、センサーの設定を変えることで誤報による駆けつけを削減する。 ・適切なタイミングでナースコールに発報させることで、転倒転落のリスクを低減させる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの質が向上し利用者様の満足度が向上する。 ・職員に余裕が生まれモチベーションが向上する。 ・別途センサーを設置することがないため、利用者様の拘束感・不快感が軽減される。また、センサー設置係る職員の手間も削減することができる。 ・誤報による、身体的・精神的な職員の負担が削減される。 ・正確な状態の把握により、ベッドの高さを固定することができるため、移乗などの動作がしやすくなる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人鉄友会)
 事業所名 (介護老人保健施設さくらの里)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りシステム		見守り支援システム「眠りSCAN」	
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年11月1日	30	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
当機器の導入にて、夜間帯の見守り業務の効率化、設置利用者の睡眠行動の把握を行い、職員の心理的・身体的負担軽減を図る。			
【導入スケジュール】			
令和3年8月 補助金申請			
令和3年9月 交付決定後、発注			
令和3年10月 導入			
【倫理面への配慮】			
機器の使用目的、安全性、効果等について利用者及び家族に説明をする。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
利用者の睡眠や動作、呼吸状態をリアルタイムでモニタリングし、一人ひとりの睡眠リズムを把握する。科学的根拠に基づいた問題の把握、それに対する対策及び計画の立案を行う。また、職員の心理的・身体的負担の軽減を目標とする。			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の睡眠リズムの把握 ・夜間時の睡眠、覚醒時間を把握し生活リズムを整える ・転倒や転落リスクの軽減 ・職員の心理的、身体的負担軽減 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
見守り巡回を行う職員 4名	見守り巡回を行う職員 1名
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット活用のための委員会を設置。2ヶ月に1回開催し介護ロボットの使用状況や効果などを検証、現場へのフィードバックを行う。 ・担当者を設置し、職員がいつでも介護ロボットの活用方法などを相談できるようにする。 ・利用者様の身体状況（呼吸数・心拍数）・状況（臥床・起き上がり・離床）を可視化・一覧化することで、一目で利用者様の現状を把握する。利用者の状態はアイコンの色で判別できるようにする。また、異常時にはアラームを発報することですぐに対応できるようにする。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット活用による効率化で、残業時間を一人当たり1日30分短縮する。 ・利用者のケアの質の向上を目指す委員会を設置し、2ヶ月に1回開催して現場にフィードバックすることで、ケアの質の向上を図る。 ・睡眠状況を測定・グラフ化し、睡眠のリズムを把握することで睡眠を妨げることのないように利用者様のケアを行う。また、睡眠導入剤の使用時間の検証など睡眠の質を向上させるためのケアを行う。 ・「睡眠状態が覚醒になった際に訪室する」等のルールを策定し、巡視業務の効率化を行う。 ・タブレットやスマートフォン等、モバイル端末で状態を確認することで移動時間の削減を図る。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの質が向上し利用者様の満足度が向上する。 ・職員に余裕が生まれモチベーションが向上する。 ・利用者様の睡眠、呼吸数、心拍状況の把握。 ・利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現。 ・睡眠の質を上げることで、日中の活動の質が向上する。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人愛知県厚生事業団)
 事業所名 (愛厚ホーム西尾苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション			テルサコール (株式会社モルテン)		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年11月1日	1台	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで		
【事業概要及び導入スケジュール】					
【事業概要】					
<ul style="list-style-type: none"> 「テルサコール」の導入により、見守り業務の補助・効率化を図り業務負担の軽減に取り組める。また、利用者様の転落・転倒事故を未然に防ぐと共に介護職員の精神的負担を軽減することも目的とする。 皮膚に優しいマットレスと、センサー機能によりナースコールに連動する。 ⇒導入によりセンサーをナースコールに繋ぎ危険を早く気づき転落・転倒を防ぐ。					
【導入スケジュール】					
令和3年 8月 申請・交付決定					
令和3年10月 購入・設置					
令和3年11月 使用開始					
【倫理面への配慮】					
・利用者様及びご家族に対し使用目的の説明を行い、ご理解いただき適切に使用する。					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)					
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)					
① 転落・転倒事故の減少 ② 介護職員の精神的・心理的負担の軽減					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
① 利用者様に対する転倒・転落事故の減少 ② 介護職員の精神的・心理的負担の軽減 ③ 認知症状のある利用者様への不快感・拘束感を与えないための配慮					

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人社団 同仁会)
 事業所名 (ショートステイ ファミリエ)
 サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		見守り介護ロボット 「aams (アアムス)」	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年10月1日	10	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>マットレス下に敷き込み、ベッド上の利用者様の体動・心拍・呼吸・離床の状態を感知するセンサーである。居室にいるご利用者様の状態をリアルタイムに把握することができるので、適切な訪室が可能であり、介護業務の効率化に資することができる。結果、介護職員の業務負担の軽減、削減された時間で、本来の介護業務にあたる事が出来るようになることが期待でき、ケアの質向上につなげたいと考えている。</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>マットレス下に敷き込み、利用者様の身体への接触がない非接触型のセンサーなので身体的な不快感はない。また、従来型のセンサーと違い、直接利用者様の目に触れることもないため、「見られている」と言う感覚をもたずに、利用者様の安全を見守ることができる。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
<p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>① 利用者様の転倒・転落ヒヤリハット、事故の削減。 ② 介護職員の見守り業務による精神的・身体的負担の軽減。</p>			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<p>ご利用者様の安全確保に資することが可能。本機を使用する事で、訪室せずに正確な離床などの検知が可能となるので、危険を未然に防ぐ事が期待できる。また、マットレス下に敷き込む非接触型のセンサーマットである事から、従来のセンサーのようにベッド周辺へのコード設置が必要ないため、配線への躓きなどによる事故減少も期待できる。</p> <p>従来、単独での離床が心配な、利用者様に対しては、通常以上の定期巡回などで対応する必要があった。その結果、介護職員の負担が増加する傾向にあったが、本機を活用する事で、遠隔で利用者様の状態把握が可能となるため、転倒リスクに対する職員の心的負担や、身体的負担の軽減が期待できる。</p>			

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人春岡会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム丹陽)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率	3/4 ・ 1/2
---------------	-----------

介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
見守り支援	見守り支援システム「眠りSCAN」 パラマウントベッド(株)		
導入時期(予定)	導入台(セット)数	購入日(予定)	リースの契約期間(予定)
令和3年10月1日	40	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

●事業概要
見守り支援システムを導入することにより、入居者様の睡眠、体調状況をデータにより把握することで入居者様の生活の質を向上させる。また、見守り業務の効率化を図ることにより介護職員の身体的、精神的な負担を軽減する。

●導入スケジュール
補助金交付決定後、速やかにWi-Fi環境を整え、本機器を導入する。

【倫理面への配慮】

- ・入居者様、ご家族様に本機器の使用目的を説明し、同意を得た上で導入する。
- ・本機器により取得した情報は厳重に管理する。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・見守り業務を効率化し、介護職員業務の負担軽減を目指す。
- ・見守り業務を強化し、入居者様の転倒転落に関する事故発生件数の減少を目指す。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- ・入居者様の心拍数、呼吸、睡眠リズム等の把握による個別ケアの充実
- ・転倒、転落事故の減少
- ・訪室確認を減らすことによる睡眠の確保
- ・看取り期の迅速な対応
- ・介護職員の身体的、精神的な負担軽減

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1. 9 : 1	2. 1 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・「眠りスキャン」を導入することで、転倒のリスクのある利用者様・エスケープのリスクのある利用者様や看取りの終末期の利用者様等への日中帯並びに夜間の居室にいる利用者様の状況確認（夜間巡視を含む）に要する時間を見守りセンサーを導入することにより、1時間おきの巡視や2時間おきの巡視が低減される。 ・夜間の休憩時間を確保できることにより、16時間夜勤と8時間夜勤の混合することが可能となり、人員体制の削減が見込める。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の巡視の際、利用者様を起こしてしまうことが無くなり、利用者様の安眠が提供できる。 ・夜間時の排泄対応が利用者様の状況に合わせて対応することが出来る。 ・夜間の巡視回数を削減することにより、夜間の休憩時間を2時間連続で確保することが可能となる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・「眠りスキャン」により、リスクがある利用者様の見守りをしてくれるため、定時巡視が必要なくなる。且つ、センサーの発報時に素早く対応することができ、リスクの低減が期待される。 ・利用者様の睡眠状態が把握できるため、オムツ交換やトイレ誘導も覚醒時や眠りの浅い状況の時に対応ができるようになるため、パットの見直し等排泄に関する見直しにも期待ができる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人成仁会)
 事業所名 (特別養護老人ホームメドック東浦)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援システム		眠りSCAN (パラマウントベッド社)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	110台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>事業概要</p> <p>見守り支援システム「眠りSCAN」を使用することにより、利用者様の睡眠情報を可視化することができ、安眠環境を整えることができる。また覚醒アラーム機能を利用することで、介護従事者の安否確認業務の削減、転倒予見の精神的負担を軽減することができる。</p> <p>現在10台ある「眠りSCAN」を全居室に整備し、業務効率向上、業務負担軽減を図っていく。</p> <p>導入スケジュール</p> <p>補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和3年度 12月導入予定)</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>ご利用者様及びご家族様に対し使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用する。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイムに可視化される利用者様の睡眠状況に合わせ、ケアを行う。 ・ご利用者様の夜間の睡眠を妨げないよう介護を提供する ・リアルタイムモニターにて入居者様の状況を把握することにより、夜勤職員の負担を軽減させる。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の睡眠・呼吸・心拍状況の把握。 ・利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現。 ・職員の精神的・身体的な負担の軽減。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
12ユニット必要時間数 336 時間/日：42名 1：2.09	12ユニット必要時間数 324 時間/日：40.5名 1：2.17
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）。	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠情報をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避けることができる ・特に看取りの方の対応において適切な訪室が図れる ・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するiPadやインカムに動きのあった入居者様の情報が入り、タイムリーかつ必要な際のみ職員が対応に動くことができるため、作業効率化を推進できる。 ・余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて訪室し、排泄サポートができる。転倒などのリスクも回避でき、介護従事者の精神的負担の軽減になる。 ・他のケアにあたっている時も、PC、モバイル端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認する。 <p>※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や入居者様ごとに合わせた個別ケアが実現できる。 ・入居者様を無駄に起こすことがなくなるため、入居者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・入居者様の睡眠時間確保できるようになれば、入居者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 百陽会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム アルクオーレ岡崎大平)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 1 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りシステム		DreamCare リスクマネジメント&介護支援システム (見守りシステム)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月15日	20台	令和3年9月30日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

《事業概要》

ユニット型特養で、各居室に見守りシステムを導入し、職員の負担軽減と、入居者の安心安全な生活を提供する。

《導入スケジュール》

令和3年9月上旬 交付決定 → 令和3年9月中旬 契約に関する理事会決議
 → 令和3年9月下旬 介護ソフト契約、発注 → 令和3年10月中旬 納品及びシステム設定
 → 令和3年11月上旬 操作説明、職員研修、入居者の個別モニタリング設定
 → 令和3年11月中旬 テスト運用 (現行とケア記録の平行稼働)
 → 令和3年12月上旬 問題点の洗い出しと改善 → 令和3年12月中旬 本格稼働開始

【倫理面への配慮】

防犯カメラのように、常時映像が流れている仕組みでなく、USB管理により、必要時に必要な情報のみを抽出する仕組みとなっている。また、特定の職員しか動画確認ができないしよとなっている。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

職員の移動時間の短縮。
 職員の夜間の精神的負担の軽減。
 居室内事故発生時の分析、再発防止。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

タブレット端末で居室内の利用者の活動量が把握できる為、安否確認の居室訪問に係る移動時間の短縮。

事故発生時の動画確認による事故分析、再発防止。

転倒リスクが高い方への早期発見、早期対応による転倒事故防止。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

★ 従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
8.5	8.0
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
見守りセンサー導入によって、夜間の居室巡回をタブレット端末で行う事で、時間を有効活用し、夜間の休憩の確保や、就寝後の夜間時間勤務の職員の軽減、削減に繋がる。	
見守りセンサーを導入し、アラート機能を併用することで、居室内の利用者の急変に対して、早期発見、早期対応が行える。	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
内出血や、居室内での介護事故が発生した場合、動画を確認することで、どのような介助を行ったのかを検証でき、手技を見直すことができる。 パソコン上で居室内の利用者の活動を確認できる為、居室訪問の負担を軽減できる。	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の負担軽減と、居室内の事故防止、及び事故検討に繋がる。 ・居室内での急変に早期発見、早期対応ができ、入居者の安心に繋がる。 ・介護事故の検討、再発防止。 	

★ 夜勤 8人、77名勤務 0.5人 → 8.5人 2名夜勤対応している。とのこと

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人東加茂福祉会)
 事業所名 (石野の里ショートステイセンター)
 サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		テルサコール	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年10月1日	10台	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>・事業概要 夜間帯を中心に、入居者の転倒・転落事故を未然に防止すると共に、介護スタッフの精神的負担の軽減を目指す。</p> <p>・導入スケジュール 補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和3年10月導入予定)</p>			
【倫理面への配慮】			
利用者及び家族へ機能と使用目的の説明を行い、ご理解いただいた上で適切に使用する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
従来型のマットセンサ等で転倒・転落が防ぎきれなかった方に対して、転倒・転落事故(インシデント含む)の低減を図ることにより、介護サービスの向上を目標とする。また、介護スタッフの精神的負担の軽減を図る。			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<p>・利用者のベッドからの転落や転倒事故を未然に防ぎ、危険動作の予兆を検知し、事故の減少が期待できる。</p> <p>・介護スタッフの業務における、精神的・身体的負担の軽減が期待できる。 (対応職員が少ない時間帯にも効率的に業務を行う。)</p> <p>・夜間の利用者への過度な干渉を減らし、睡眠環境を改善する。</p>			

介護ロボット導入計画書

法人名 (ミソノピア株式会社)
 事業所名 (ミソノピア)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りロボット		眠り SCAN パラマウントベッド	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年8月31日	5	令和3年8月 31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

- ① 助成金申請許可後、ミソノピア内、特定施設居室9階建て160室のご入居者様の夜間の見守り業務の負担軽減の一環として、導入を行う
- ② 特にお看取りの方、スタッフが常駐していない上層階の方の通常巡回に加え、見守りロボット導入により、夜間少人数の動作軽減、安心、休憩時間確保へと繋げる
- ③ 9月以降導入開始を目指す

【倫理面への配慮】

- ① ご本人の個人情報流出に備え、データ管理・情報漏洩には、就業規則に沿い、罰則

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ① 夜間帯、特に介護詰所・看護詰所から遠い高層階のスタッフが常駐していない居室の、ご状態の不安定な方の様子がモニターにて確認でき、巡回時以外にもご様子確認が可能となる事からスタッフの身体的心身的ストレス不安の間接的軽減に繋がる
- ② 夜間帯のリズムを把握することで、日中の過ごし方、楽しみ方の介護方法を工夫出来、ご利用者の方も、スタッフも日々の暮らしの満足度が上がる

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- ① ご利用者の一日のリズムを把握することで、その方の過ごし方が明確になり、一日の時間がより充実していく
- ② 夜間帯の少人数スタッフでも、見守りロボットにより、ご不安な方のご様子が常に確認でき、心身的な安心を導くことになる

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.5 : 1	2.2 : 1

見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）

- ① 見守りセンサー導入により、夜間帯のご様子確認に介護スタッフが細やかにデータ把握することで、宿直看護師への連絡回数が減り看護師の睡眠時間が確保できる見通し
- ② 既に導入済みの電子カルテ入力作業が、館内どこでも可能になり、業務の流れを止めることなく進められる
- ③ 今後、数年以内に導入を検討しているインカム使用の礎が出来ることで、様々なセクションが混在するホーム内のスタッフ同士の情報共有の効率化もはかる

利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

- ① 眠りSCAN導入により、夜間の睡眠などのご様子が分かる。日中の過ごし方をどうしていくことで、夜間、お休み頂けるかを、より良い介護のアイデアを出し合っている体質に変えていく。
- ② 夜間少人数スタッフでの対応の中で、モニターでご不安なご状態の方のご様子を確認していただけることで、定期巡回と併せて、より細やかに、ご状態の把握をしていける。お互いの休憩時間の確保がしやすくなる。
- ③ お看取りの方のご対応が、データにより、状況をみんなで共有できることで、スタッフの心身的不安を減らすことができる。

これらの取組により期待される効果等

- ① 見守り機器導入により、ご状態の不安定な方のお身体の状態把握を細やかに行い、重度化を防ぐことができる。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 緑生福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 南生苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		眠り scan、眠り scanEYE	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和 3年 12月 1日	20台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

●事業概要：睡眠状況や心拍数、呼吸状態を見守り支援機器により視認可能となる。看取りの方や入所契約して間もない方など、見守りが特に求められる方々に対して、適切な生活支援につなげる。また、介護従業者の負担を軽減する。また、眠り scanEYE は実際に本人様の様子を記録として撮影が可能であるため、より客観的に施設ケアの内容や本人様の転倒等の事故発生時に、対策と検討がしやすい。

●導入スケジュール：補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和3年12月頃)

【倫理面への配慮】

●使用前に入苑者様並びに身元引受人様へ使用目的と機能の説明を行い、ご理解いただいた上で適切に使用する。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- 入苑者様の状態の変化や呼吸状態をモニタリングし、データ化すること記録時間を短縮し、また、見守り業務の効率化を図り、特に夜間帯における訪室等の介護時間を短縮させる。
- 介護支援専門員、看護職など多職種連携による本人様の生活支援を検討する指標とする。
- ケアプラン作成時に、日中の活動や夜間帯の睡眠状態など、眠り scan を使用したモニタリング状況を提示し、より科学的な根拠をもった生活支援内容につなげる。
- 眠り scanEYE により入苑者様の状況把握が適切に行われ、職員の精神的負担を軽減すると同時に、より良い支援につなげることで職員のやりがいにつなげる。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- 入所者様の情報(睡眠、覚醒、呼吸、心拍)の把握により、個別ケアの充実が図れる。
- アラーム機能、映像情報等により転倒リスクを回避し、利用者の安全な生活を確保する。
- 看取りの方の見守りについて、心拍数や呼吸数など、本人様の状態を待機看護師や嘱託医、身元引受人様へより細やかに報告へつなげることができる。
- 職員の精神的・身体的負担を軽減し、離職者を減らすことができる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.2:1（夜勤職員 5名体制）	2.3:1（夜勤職員 5名体制） （※効率化分は主にケアの向上へつなげる）
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ● 眠り scan のアラート機能や眠り scanEYE の可視化により、転倒リスク回避のための職員の訪室回数の軽減を図る。 ● 眠り scan の機能を用いて、リアルタイムの本人様の情報を蓄積・共有することで、アセスメント・分析の効率化を図る。また、事故発生後の検証にも効果的に活用できる。 ● LIFE 関連加算において科学的介護の実践が求められているため、眠り scan の記録データを用いて、睡眠リズムと排せつを誘導するタイミングを図ることが可能となる。 ● 看取り期や重度の認知症の方など見守りを多く必要とする人への支援を効率良く行うことができる。 ● 眠り scan のデータを解析することで、巡視方法等の介護マニュアルを見直しを図る。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ● 同一法人内の別施設で前年度試行的導入がされており、眠剤の効能チェック、夜間の睡眠状況で日中のアクティビティやリハビリの調整など、ケアの質の改善につながった実績があり、同様の効果が期待できる。 ● 夜間帯における本人様の状態像を可視化されたデータを用いて説明することで家族様との情報共有がしやすくなり、より良い信頼関係を構築していく。 ● 夜間帯の定期巡視による睡眠障害の一因があるため、眠り scanEYE による直接、睡眠状況の確認により訪室するかどうかの判断を行い、睡眠障害要因の軽減が可能となる。 ● 眠り scan のアラート機能や眠り scanEYE の可視化により、看取り期や転倒リスクの高い認知症の方などの訪室のタイミングを見極めやすくなることで職員の精神的・身体的負担を軽減し、職員の休憩時間を確保しやすくなる。 ● 睡眠状況の把握により、排せつケアの適切なタイミングを図るチャンスが作りやすい。特に認知症の周辺症状がある方にとって、なるべく不快に陥らないようなケアに繋がる。また、失禁等によるシーツ交換等の機械を減らし、職員の負担軽減とする。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ● 夜勤帯の少ない人員で、ケアを行う精神的な負担を和らげるため、職員以外の客観的な目として機能を果たすことが可能となる。 ● 家族様や医師等への報告の際、可視化されたデータや映像を用いて、状況報告が出来るため、議論のスムーズ化が期待できる。 ● 介護職員の精神的、身体的負担の軽減により離職者を減らし、また、少人数であってもケアの質の維持、向上につなげることができる。 ● 実習生等これからの介護の担い手となる人にとってイメージアップとなり、介護人材の確保が期待できる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社 ミズノ)
 事業所名 (ひだまりの郷 たけとよ)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム「眠り SCAN」	
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年9月1日	5	令和3年8月下旬	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
・ ご利用者様の状態 (睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数) をリアルタイムで可視化し、業務効率の向上と介護職員の負担を軽減する。情報をもとに管理者、介護支援専門員、介護職、看護職、リハビリ職と適切な個人個人への介入方法を検討し、質の高いケアの向上を図る。			
【倫理面への配慮】			
ご利用者様及びご家族に使用目的を説明しご理解を頂いた上で適切に使用する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 従業員の主に夜間帯業務に対する身体的・精神的な負担の軽減 (離職防止)。 ・ 労働環境の整備 (ICT 推進) による人材の確保。従業員満足度の向上。 ・ ご利用者の自室内における行動予測による事前対策することで転倒事故、転落事故を防ぐ。 ・ 適切なケア時間を算出でき、関わる時間が増えることでご利用者様の顧客満足度の向上。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ご利用者様の状態 (睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数) の把握。 ・ 睡眠パターンの把握による、巡視・排泄介助の効率化。 ・ 介護職員の負担軽減。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
① 日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 ② 遅番 ~21時。早番 7時~。	① 日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 ② 遅番,早番の時間短縮。20時~7時30分まで1名対応。
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none">・記録にかかる時間が非常にかかっており、利用者とのコミュニケーションに掛けられる時間が少ない。記録にかけている時間が削減できれば、レクレーションやフロアに人員を活用できる。・早番,遅番業務に入る職員が負担に感じている。早番,遅番ができない職員がいる。早番遅番があることで採用に至るケースが少ない。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・見守り機器と記録ソフトを連携させることによって、今までは記録しなければならなかった情報（アラームが鳴動した件数や状態）が自動で入力される。このことによって、入力にかかる負担が軽減される。軽減できた時間を活かし、利用者とのコミュニケーションや、レクレーション、フロアの見守りの時間に活用をする。・ご利用者毎の動きを把握することで適切な介護内容を把握し、業務の生産性の向上と業務負担を省力化する。・コミュニケーション機会の拡大による各ご利用者の把握や、レクレーション、フロアの見守り方法のOJTを作成し、顧客満足度を上げる。・職員の採用率の上昇。	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・モニター画面を確認することで利用者の状況を確認し、対応の優先順位づけを行う。生活パターンや傾向を理解することができ、夜間帯で言うならば、訪室するタイミングを調整し、眠りの妨げにならないように対応できる。・日勤や夜勤中のケアをしながら記録する負担を、見守り機器と記録ソフトの連携によって、見守り機器で得られるデータは自動で反映されることにより、入力すべき事項を大幅に削減できる。休憩時間が確保できる。・適切な個別介入から職員の休憩時間を分散する。	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none">・職員の心身の負担軽減につなげ、業務にゆとりを持つことができる。・利用者の生活に合わせた食事時間の提供や日課活動を可能にする。・一律ではない個別ケアの実践によるQOL/ADLの維持向上。	

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社マザーズ)

事業所名 (グループホーム円頓寺本館)

サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		眠り SCAN	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	18	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>事業概要</p> <p>見守り支援システム「眠り SCAN」を使用することにより、利用者様の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）をリアルタイムで可視化し、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。また、状況に合わせてのケアを行うことにより、利用者様に提供するケアの質の向上を図る。</p> <p>導入スケジュール</p> <p>補助金交付決定後、速やかに導入する。（令和3年度 12月導入予定）</p>			
【倫理面への配慮】			
ご利用者様及びご家族様に対し使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】（3年間目処） (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムに可視化される利用者様の睡眠状況に合わせ、ケアを行う。 ご利用者様の夜間の睡眠を妨げないよう介護を提供する リアルタイムモニターにて入居者様の状況を把握することにより、夜勤職員の負担を軽減をさせる。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> 利用者様の睡眠・呼吸・心拍状況の把握。 利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現。 職員の精神的・身体的な負担の軽減。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2020年度平均月間労働時間 2200時間	平均月間労働時間を100時間削減し、2100時間を目標とする
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。 ・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった入居者様の情報が入り、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進する。 ※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。 余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行う。 ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC、モバイル端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認する。 ・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更する。 ※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や入居者様ごとに合わせた個別ケアが実現できる。 ・入居者様を無駄に起こすことがなくなるため、入居者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・入居者様の睡眠時間確保できるようになれば、入居者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人青山里会)
 事業所名 (びわじま介護センター)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率	3 / 4	1 / 2	
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
令和3年8月1日	a a m s (株)バイオシルバー社製		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年8月1日	3	令和3年8月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<ul style="list-style-type: none"> ・見守り支援システム導入によるご利用者の睡眠と覚醒のリズムの把握に努め、当該データを検証してご利用者の睡眠リズムに適した適切なケアの実践を図る。また、適切な訪室のタイミングを見極め、必要のない巡視の回数の減少を図ることによる職員の介護負担軽減につなげる (業務の効率化)。 ・令和3年8月1日までに見守り支援システム関連するすべての機器の導入と環境の整備を完了させ、全ての介護従事者への実機の操作説明会等を経て、遅くとも同年10月1日からは本格的に運用を開始する予定。 			
【倫理面への配慮】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居者、およびそのご家族に対して、システムの使用目的を説明して、同意を得た上で見守り支援システムの使用を開始いたします。 			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> 適切な巡視時間の実施 (安眠阻害の防止・介護負担の軽減) 適切な日常生活リズムの構築 (適切なケアの見極めと実践) 心拍数と呼吸数のデータの考察を行い、看取りケアの体制の構築につなげる。 介護ロボットを含めたICT活用する目的とその効果および活用方法の理解を職員全員で深める。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個人の睡眠と覚醒のパターンを把握することができ、個々人に対して適切なタイミングで訪室や巡視を実施することができる。それにより利用者の安眠を阻害しない効果がある。また、不用意な訪室による利用者の覚醒とその後の不眠を防止できるため、職員の負担軽減の効果も期待される。 ・昼夜逆転傾向のある利用者に対して、健康的な生活リズムを構築するための材料として、当該システムの睡眠状況のデータを活用することができる。 ・バイタルも定期的に計測されているため、体調の変化を可視化することができ、より迅速な対応に繋げる効果が期待される。また、将来的な看取り体制の構築の際に、より信頼度の高い看取りケアの実践に繋げる効果も期待できる。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 成祥福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホームこすも)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		エスパシアシリーズ(パラマウントベッド株式会社)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年3月1日	100台	令和3年12月15日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
【事業概要】 ベッドに内蔵された離床 CATCHIIIを使用し、ご利用者の動き（起き上がり/端座位/離床/見守り）を把握することで、夜間帯を中心としたご利用者の転倒・転落事故防止を図ります。また、介護スタッフの見守り業務の心理的負担の軽減と業務の効率化を図ります。			
【導入スケジュール】 補助金交付決定後、速やかに導入する。（令和3年度 12月導入予定）			
【倫理面への配慮】			
ご利用者及びご家族様に対し使用目的の説明を行い、十分理解を頂いた上で適切に使用する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 （3年間目処） （介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等）			
① ご利用者の転倒・転落事故の減少 ② 介護スタッフの身体的・心理的負担の軽減			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
ご利用者の動作に合わせたセンサー設定が可能な為、起き上がり時などの適切なタイミングでナースコールの通知が鳴り、転倒及び転落事故の減少が期待される。また、ベッドに内蔵されたセンサーを活用することで、より正確な検知が可能になり、センサー誤報による介護スタッフの駆けつけが減ることも期待できる。			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービ

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 なごや福祉施設協会)

事業所名 (特別養護老人ホーム なごやかハウス希望ヶ丘)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 <input checked="" type="radio"/>	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		aams 介護セット B018-AAMSKS、 AXIS 製ネットワークカメラ M1065-LW	
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年11月1日	5台	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>「aams」、ネットワークカメラの導入により、援助を効率化し介護職員の負担軽減を図る。また、心拍や呼吸のバイタルサイン、睡眠の状態を詳細に把握することにより援助の質を向上させ、ご利用者様の生活の質を向上させる。</p> <p><導入スケジュール></p> <p>令和3年10月購入 令和3年11月使用開始</p>			
【倫理面への配慮】			
<ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたり、ご利用者様・ご家族様に機器の概要にて説明を行い、使用の同意を得る。 			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護職員 (ご利用者様) の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様の睡眠状況を把握し、同一時間の一律の援助でなく、個々の状況に応じた個別のケアを提供する。睡眠状態を把握することにより、巡視や排泄介助など効率良く行うことができ、夜勤の介護職員の負担軽減も期待できる。 ・血圧や心拍などのバイタルサインを管理画面から詳細に把握することにより、データに基づいた適切な援助を提供し、ご利用者様に急変があった際も早期に対応できる。また、看取り援助の際のご利用者様の状態把握も訪室せず管理画面の確認で行え、介護職員の負担を大幅に軽減することが期待できる。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・詳細なデータによる個別ケアの推進とケアの質の向上が期待できる。 ・入所者様個々の状況を一元的に管理することが可能になる。その為、介護職員の身体的・精神的負担が軽減され、介護職員の職場への定着率が向上することが期待できる。 			

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社豊田ほっとかん)
 事業所名 (有料老人ホーム豊田ほっとかん)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守り支援			見守り介護ロボット aams		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年9月1日	3台	令和3年9月1日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	
【事業概要及び導入スケジュール】					
◎事業概要 見守り介護ロボット aams を事業所本館へ導入することにより、転倒・転落等の事故の予防を図るとともに、入居者の睡眠リズムや、心拍・呼吸の状態を把握できるため、異常時の早期発見に繋げる。					
◎導入スケジュール 令和3年7月申請 令和3年9月導入					
【倫理面への配慮】					
入居者本人及びご家族に対して、機器を使用する目的と効果についての説明を行う。 また、取得した情報に関しては厳重に管理を行う。					
◎介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)					
<ul style="list-style-type: none"> 入居者の睡眠リズムを把握することにより、転倒・転落等の事故を防ぐ 夜間の訪室を減らし、職員の業務の効率化を図り、肉体的・精神的なストレスを軽減させる 					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
◎入居者 <ul style="list-style-type: none"> ベッドからの転倒・転落等の事故の予防 睡眠リズムを把握し、内服薬の調整に繋げる 入居者のご家族に対して状況報告時にデータを用いて説明を行うことができる 場所を問わず見守り状況の把握がされることによる早期の異常発見 					
◎職員 <ul style="list-style-type: none"> 入居者の体調の変化がモニターにより確認できるため、迅速に対応ができる 					

- ・モニターにより入居者の身体情報が確認でき、必要以上の訪室をしなくてもよく、見守り業務に充てていた時間を他の業務に充てられるため、業務の効率化が期待できる。
- ・場所を問わず見守り状況の把握ができることによる、迅速な異常発見対応、業務の効率化。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
要介護者 1.5 名に対し介護職員等 1 名体制	要介護者 1.75 名に対し介護職員等 1 名体制
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>夜間（18 時～翌 7 時）の時間帯で使用し、介護度の重い入居者のベッドに設置し、パソコンで睡眠の状況を確認することで、直接訪室して入居者の様子を確認する行為を減らすことが出来る。訪室回数が減少する為、その分少ない人員体制で業務を遂行することが出来る。</p>	
<p>利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り介護ロボットで睡眠状態の把握を行い、夜間の定時巡回の回数を減らす ・見守り介護ロボットを活用し、「熟睡中の訪室をしない」「日々の睡眠リズムを把握し、適切な訪室時間に反映させる」等に繋げる ・睡眠導入剤の利用をしている入居者の睡眠状態を把握し、看護職員や医師に報告する ・看取りを実施する際に、心拍や睡眠状態等を見守り介護ロボットで把握しつつ対応する。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の定時巡回の回数が減少することで、職員の身体的負担が減少する ・夜間に入居者の睡眠状態を把握することが出来ることで、状況把握できる安心感につながり、職員の精神的負担が減少する ・夜間に入居者の睡眠リズムを把握・記録できることで、データを検証し、適切な定時巡回に繋げることが出来る ・熟睡中の訪室を防ぐことが出来るため、入居者の睡眠の質を向上させることが出来る ・入居者の睡眠状態を考慮し、睡眠導入剤の調整を行うことで、ケアの質向上が望める ・入居者の異常の早期発見が可能となる ・看取りを希望する入居者へのより密な容体把握・対応が望める 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 勅使会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム第二勅使苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4		1 / 2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション			高齢者見守りシステム 見守りライフ		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年10月1日	3	令和3年9月20日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	

【事業概要及び導入スケジュール】

事業概要

・主に夜間帯での入居者様の状況把握を行う事を目的とし、転倒や転落事故を防ぐ。又、ロボット導入により職員の介護負担、精神的不安の軽減を図る。

導入スケジュール

・9月購入予定として10月より運用開始。同機を運用している為、使用方法は周知されており導入後すぐに使用可能。
 ・運用後は対象の入居者様について、定期的に評価、検討を行っていく。

【倫理面への配慮】

・入居者様やご家族様に対し、使用目的や効果を説明し同意を得た上で使用する。これに関する情報については厳重に管理する。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

・居室内での転倒、転落事故件数をゼロに近づける。
 ・見守りの手薄になる時間帯の利用者の状態把握や、異常時の早期発見につながる。
 ・介護業務負担軽減に伴う、職員の身体的、精神的負担の減少

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

・転倒リスクがある方の起き上がり、寝返りがしっかりと把握でき、夜間帯にはユニット間の移動を最小限にすることができる。
 ・ベッド上の動きが把握できることにより、センサーの反応する前に対応することが可能になる。
 ・転倒事故の減少、見守りに関する負担が軽減されることにより、職員が安心して夜勤業務やその他業務に従事することができる。
 ・業務の効率化、接遇の向上に期待する。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人 東恵会)
 事業所名 (介護老人保健施設 星ヶ丘アメニティクラブ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		ベッドコール・コードレス (BC-RN) (テクノスジャパン)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年9月15日	10台	令和3年9月15日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
夜間帯を中心に、ご利用者の転落・転倒事故を未然に防止すると共に、職員の精神的負担の軽減を目指す。 ○導入スケジュール ・ 補助金交付決定⇒導入決定⇒業者へ発注⇒機器納入⇒使用状況の検証⇒導入効果報告			
【倫理面への配慮】			
使用前に、入所者及びご家族へ、使用目的、安全性、効果などについてご説明し、ご理解を得た上で使用する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
・ 入所者の転落・転倒事故の防止や減少 ・ 職員の精神的・身体的負担の軽減 (夜間帯などの見守り業務の効率化)			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
・ 入所者ベッドからの転落・転倒事故を未然に防ぐことにより、事故の減少が期待できる。 ・ 見守り業務の効率化にもつながり、職員の精神的・身体的負担の軽減が期待される。			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤時人数体制 全フロア合計 8名（3名・3名・2名）	夜勤時人数体制 全フロア合計 8名（3名・3名・2名） ※見守りの人員配置の効率化はある

見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）

当施設のフロアの構造は東側と西側に分かれており、夜間帯はそれぞれの方面に担当を決めて見守り・巡視を行っている。転倒・転落の危険性が高いご利用者が多数いる時は、担当職員が廊下にて待機し、見守り以外の業務（記録業務など）を行っている場合もある。その為、見守りセンサーの導入をした場合は、以下のような見守り・巡視に関する人員配置の改善を行うと同時に、業務の時間割り当てを見直し、他の業務も効率を図る。

例 3人体制の夜勤

	現在	センサー導入後	見守りにおける人員体制の効率化
	見守り・巡視担当 ← (主に1名)	見守り・巡視担当 ← (3名で確認・対応)	
東側 見守り重視対象 ご利用者 複数名	東側見守り担当職員B ※場合によっては、廊下にて見守り待機する場合もある。	サービスステーション担当職員A (ナースコール本体にて確認可)	主の見守り担当者だけでなく、各職員が持ち場以外の状況を把握し、連携が取りやすくなる。見守り以外の業務の時間を確保し、業務全体の効率化を図る。
		東側見守り担当職員B (端末にて確認可)	
		西側見守り担当職員C (端末にて確認可)	

利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

センサーを使用するご利用者を、同じ区域に固めるなど、見守り重点区域を明確にし、複数名で注視する。

- ・ 職員の素早い対応が可能となり、転倒・転落への精神的な負担が軽減される。
- ・ ご利用者のベッドからの起き上がり・立ち上がり時（車椅子・トイレへの移動など）に 適時適切なサポートをすることができる。

これらの取組により期待される効果等

- ・ 転落・転倒防止への職員の精神的・身体的負担の軽減
- ・ 見守り以外の業務の時間の割り当てと休憩時間の確保。
- ・ 入所者のベッドからの転落・転倒事故を未然に防ぐことによる事故の減少。

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人 中野会)
 事業所名 (介護老人保健施設 LA・LA・LA)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		リコーみまもりベッドセンサーシステム	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年10月30日	6	令和3年10月30日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<ul style="list-style-type: none"> ・見守り業務の効率化を図り、日中・夜間の業務負担を軽減する。 ・サービス向上に繋げる。 ・交付決定通知到着後 30 日以内に導入する。 ・導入後に事業者より職員への製品勉強会を実施する。 			
【倫理面への配慮】			
<ul style="list-style-type: none"> ・随時ではなく、必要時のみモニタリングを行うことにより、利用者のプライバシーに配慮する。 			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
【現状】			
<ul style="list-style-type: none"> ・転倒・転落等リスクのある利用者が非常に多く、入所定員 100 名に対し、常時、見守りが必要な利用者が 20 名以上、常に入所している。また、認知症の症状も重度化しており、離床の際に転倒するケースが非常に多く、令和 2 年度の転倒・転落等の件数は、月平均 12 件ある。・夜間においては、3 名の介護スタッフが、2 時間に 1 回の巡回を行い、利用者の状況を確認しているが、特に見守りが必要な入所者 10 名に対しては、定期巡回の間にさらに随時の追加巡回が発生している。 			
【目標】			
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の転倒・転落事故を、月平均 6 件 (50%減) にする。・夜間、特に見守りが必要な利用者の追加巡回は、センサー検知時のみとし業務負担を軽減する。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の転倒転落を未然に防止する。 ・毎日参考体重測定ができるので、利用者の機微な状態変化も察知できる。 ・介護職員の業務負担を軽減する。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
29人	29人
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
・見守り業務に時間や負担がかかっており、常に周囲を気にしている環境下で、利用者とのコミュニケーションに掛けられる時間が少ない。そのため、人員体制はそのまま継続を見込んでいる。時間が削減できれば、レクリエーションやコミュニケーションなど他の業務に人員を活用し、業務負担の軽減のみでなく、利用者へのサービス向上に繋がられるよう取り組んでいく。	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
① 巡視前に見守り機器のモニター画面を確認することで利用者の状況を確認することで、対応の優先順位づけを行う。 ② 見守り機器の導入により、利用者のアラーム発報のタイミングを知ることができ、生活パターンや傾向を理解することができるために、夜間帯で言うならば、訪室するタイミングを調整し、眠りの妨げにならないように対応する。	
これらの取組により期待される効果等	
① 心身の負担軽減につなげ、業務にゆとりを持たせる。 ② 利用者のQOL/ADLの維持向上に繋がる。	

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人 聖俊会)
 事業所名 (豊川老人保健施設ケアリゾートオリーブ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名		
見守り支援		テルサコール (株式会社モルテン)		
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)	
令和3年12月1日	10台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで	
【事業概要及び導入スケジュール】				
<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 夜間帯を中心に、入所者の転落・転倒事故防止を未然に防止すると共に、介護スタッフの精神的負担の軽減を目指す。 ・導入スケジュール 補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和3年12月導入予定) 				
【倫理面への配慮】				
入所者及び家族へ機能と使用目的の説明を行い、ご理解いただいた上で適切に使用する。				
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)				
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)				
<ul style="list-style-type: none"> 入所者の転落・転倒事故防止や減少。 介護スタッフの精神的負担の軽減 				
【介護ロボットの導入により期待される効果等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・入所者のベッドからの転落や転倒事故を未然に防ぐことや、同様の事故の減少が期待できる。 ・介護スタッフの業務における、精神的・身体的負担の軽減が期待できる。 				

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
常勤 32 名・非常勤 5 名 夜勤帯 3 名	常勤 31 名・非常勤 6 名 夜勤帯 3 名
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の活動を把握することで、不必要な見守りや訪室がないか検討する ・介護ロボットを活用したケアの提供体制づくりのきっかけとする ・センサー以外にもインカム、介護記録ソフトの導入を検討する ・人員体制効率化についての導入後アンケート調査を実施する ・メーカー開発部へ現場の意見を届け、より良い商品開発に協力する 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の動きを事前に察知することで、転倒転落事故の予防を図る ・新規利用者の活動や睡眠など生活リズムを知ることで利用者個々に適切な対応を検討する ・職員の心理的負担の軽減を図る ・ケアの質、負担軽減についての導入後アンケートを実施する ・職員のモチベーションアップを図り、働きやすい職場を作る 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の転倒転落事故の減少 ・利用者の生活リズムに合わせたケアの提供 ・職員の身体的精神的負担の軽減 ・ICT 機器、介護記録ソフトを取り入れたケアの提供体制が拡充できる ・アンケート調査を元に効果及び課題を明確化し、更なる業務改善に繋げる ・離職率の低下、高い定着率を維持する 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人さわらび会)
 事業所名 (特別養護老人ホームさわらび荘)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り機器		眠りスキャン NN-1320 (パラマウント製)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年1月 20日	75	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>介護業務の負担軽減、施設入居者様の安全確保、睡眠状況の把握を目的に、全入居者様に対して同社製品を導入し、転倒等の事故発生の未然防止を図るとともに、睡眠状況の確認を行い健康面での把握に関してICTを活用し行う。また、介護職員配置基準における夜勤職員配置の緩和措置を目指し、効率的な人員配置を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年8月通信環境整備 令和3年10月購入契約 11月納品 12月業者指導の下試験運用開始 			
【倫理面への配慮】			
<ul style="list-style-type: none"> ご家族様向けに製品導入の説明を行う。 認知症軽度の入居者様にも同様に製品説明及び仕様の同意を得る。 			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
<p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 負担の大きい夜勤業務の軽減が図れる。現状概ね1介護職員(正規職員)あたり月7回程度の夜勤業務を行っているが、見守り機器導入後の基準緩和措置を適用すると4回程度に減少できる。 夜勤業務が減ると、日勤帯の職員配置が充足でき入居者様への日中活動の充実が図れる。 眠りスキャンであり、入居者様の睡眠状況の把握ができるとともに、異常の早期発見につながる。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> 日勤帯に正規職員が充足できることで、入居者様へのレク、リハビリ支援等の活動時間の増加が見込める。 入居者様ごとの眠りの状況把握ができるとともに、バイタル確認が把握でき以上の早期発見につながる。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜勤勤務において、実人数3名の配置を要する。(1月介護職員の夜勤数は平均7回程度) 現状1:2.6の配置状況	夜勤勤務において常勤換算で2.4以上(1月介護職員の夜勤数は平均4回程度に減少) 1:2.9程度の人員配置で可能
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜勤職員の配置基準緩和適用を受けた場合、介護職員一人あたり1月7回程度の夜勤勤務を行っていたが、100%見守り機器導入、インカム使用等により4回程度に減少する。 ・ 夜勤勤務が減少することで日勤帯の職員配置が充足し、入居者様のリハ、レク等への時間が増加する。 ・ 日勤帯の職員配置が充足することで、有給休暇等の取得も行いやすく業務効率、生産性の向上に繋がる。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体的、精神的負担の大きい夜勤業務の回数を削減できるため、負担軽減につながる。 ・ 100%見守り機器導入に伴い、現在夜間2回実施している巡回訪問が実施しなくてもよくなる。(必要な方へは実施) ・ 見守り機器としての機能もあり、日中、夜間等のベッドからの起き上がりに対して速やかに対応できるため、転倒、転落等の事故防止につながる。 ・ 睡眠状況の把握ができるため、入居者様の眠りの状況、日中活動の充実を促す根拠となる。 ・ 夜勤回数が減少することにより有給休暇等の取得が促進され、介護職員の身体的、精神的負担が軽減できる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職員の適正配置に繋がり、有給休暇等の取得につながることで働きやすい職場環境が整備できる。 ・ 転倒等の事故発生が防げ、入居者様、ご家族様の安心につながる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人1980)
 事業所名 (高齢者グループホーム円)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		リコー みまもりベッドセンサーシステム	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年10月1日	8台	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
リコーみまもりベッドセンサーシステムを導入することを通して、利用者の安心・安全の向上とともに、介護業務の効率化を図る ・ 交付決定通知到着後30日以内に導入する ・ 導入後に事業者より職員への製品勉強会を実施			
【倫理面への配慮】			
・ 必要時のみモニタリングを行うことにより、利用者のプライバシーに配慮する。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
【現状】 転倒・転落リスクのある利用者や、常時、見守りが必要な利用者が入所している。また、認知症の症状も重度化しており、離床の際や歩行時に転倒するケースも見られる。夜間においては、1名の介護スタッフが、定期的に巡回を行い、利用者の状況を確認しているが、ナースコールを押さずに、独力でトイレに行こうとされて転倒の危険がある利用者に関しては、常に注意してモニターによる管理が必要になっている。 【目標】 利用者の転倒・転落事故を、無くす。夜間、特に見守りが必要な利用者の追加巡回は、センサー検知時のみとし、追加巡回回数を減らす。			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
・ 利用者の転倒転落を未然に防止する。 ・ 毎日参考体重測定ができるので、利用者の機微な状態変化も察知できる。 ・ 活動履歴レポートが取得できるので、より利用者の実態に即したケアプランを作成できたり、ご家族への説明時エビデンスとして活用したりすることができ、顧客満足度の向上も見込める。			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
夜間時間帯 1名	夜間時間帯 1名
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動履歴のレポートを活用することによって、今までは手入力しなければならなかった情報（アラームが鳴動した件数や状態）が入力不要に、業務時間の削減につなげる。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・巡視前に見守り機器のモニター画面を確認することで利用者の状況を確認することで、対応の優先順位づけを行う。 ・日勤や夜勤中のケアをしながらの記録作業は職員の大きな負担となっているが、見守り機器で得られるデータは自動でレポートされることにより、入力すべき事項を大幅に削減。 ・見守り機器により利用者のアラーム発報のタイミングを知ることができ、そこから生活パターンや傾向を理解することができるために、夜間帯で言うならば、訪室するタイミングを調整し、眠りの妨げにならないように対応するように努める。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の心身の負担軽減につなげ、業務にゆとりを持てるようになる ・利用者のQOL/ADLの維持向上 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 名古屋ライトハウス)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 瀬古第一マザー園)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守り・コミュニケーション			眠りSCAN・眠りSCAN eye (パラマウントベッド社製)		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年12月1日	眠りSCAN 54台 (うち眠りSCANeye セット10台)	令和3年11月1日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	

【事業概要及び導入スケジュール】

- ・現状、短期入所で1台の「眠りスキャン」を導入し、見守り機器として使用している。入居者のADLの低下、入居者の入退所により、昼夜問わず見守りが必要な方が増加している。よって、特養も全床に「眠りスキャン」等を導入し、入居者の見守りを強化するとともに転倒・転落防止に努める。(すでに見守り機器として見守りベッドエスパシアを6台導入済み。)
- ・購入時期については、別で申請する通信環境が整った直後に納品できるよう調整する。
- ・すでに「眠りスキャン」を短期入所で1台導入しているため、基本的な使い方は職員も理解しているが、カメラについては、業者からの使い方説明会を数回に分けて実施予定。

【倫理面への配慮】

カメラを設置することで、「すでに監視されている」と思われる入居者や家族が発生する可能性が高い。設置前には入居者と家族に対してカメラ機能の目的や機能の説明を徹底する。また、入所契約時に本人と家族に説明をして事前にプライバシーに関する同意を得ておく。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・全床に「眠りスキャン」を導入することにより、1時間に1回実施している夜間の巡視にかかる時間を削減することができる。削減できた時間を他の入居者のトイレ誘導に充てることことができる。
- ・センサーが反応したらすぐに居室に駆けつけていたが、見守り機器(特にカメラ機能)を導入することで、現地に行くことなく入所者の状態を把握することができ、不必要な訪室を省くことができる。入居者も夜間の職員の巡視で起こされることがなくなるので、睡眠の質を高めることができる。
- ・夜勤職員全員がインカムを使用することで、情報共有をスムーズに実施することができ、センサーが反応した際も職員が連携を取りながら臨機応変に対応することができる。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- ・夜間の巡視の時間の削減に繋がる。
- ・訪室することなくセンサーによって入居者の状態確認ができるため、緊急性が高い方から順番に訪室することが可能となる。そうすることで、事故を未然に防ぐことができる。
- ・モニターを通して入所者の状態が確認できるため、特に夜勤職員の精神的不安の軽減に繋がる。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 6 : 1	2. 8 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none">・全床に見守りセンサーを導入することにより、定時の巡視にかかる時間を削減でき、職員の負担軽減に繋がる。全床に導入した場合、約3時間の時間が削減できる。・インカムを導入し、職員同士がタイムリーに情報共有することにより、必要な入所者のもとへ駆けつける職員が重複せずに速やかにケアを実施することができる。・事故を減少させることにより、入所者はもとより、職員の報告書作成にかかる時間も削減することができる。・タブレット（スマートフォン）を導入することで、いままでスタッフルームでしか実施できなかった記録業務を館内のどこでもできるようになるため、入力忘れが軽減でき、タイムリーな情報を共有することができる。申し送りの場所も限定されないため、時間の削減に繋がる。	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none">・入所者個々の睡眠の質を可視化できるため、夜間の睡眠の質に合わせて日中の入所者へのケアを個別に提供することができる。・夜間の巡視時間を削減できることで、職員の休憩時間が確保できる。・看取り期の入所者がいる夜勤者への精神的負担が軽減される。また、睡眠状態を見ながら、夜中でも該当者が起きているタイミングで声掛けや水分補給をすることが可能となる。	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none">・夜勤業務の身体的、精神的負担の軽減に繋がる。・入居者の転倒、転落事故が減少する。・過度な巡視や訪室を避けることにより、業務の効率化を図ることができる。残業時間の削減に繋がる。・夜勤業務負担が原因での退職者が減少する。	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 清涼会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 東海清涼苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		次世代予測型見守りシステム Neos+Care (ネオスケア)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年11月1日	10台	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>事業概要 被介護者の転倒・転落の予兆動作を検知することで、早いタイミングでの介助を行う事ができ 安全確保につなげるとともに、介護職員の見守り業務の効率化、業務負担の軽減を図ります。</p> <p>導入スケジュール 令和3年8月 設置環境調査及び機器取り扱い説明会の実施 11月 設置導入</p>			
【倫理面への配慮】			
入居者様及びご家族様に導入する機械の説明を行い、同意を得た方にのみ使用する 職員に対し適切な利用とプライバシーについての誓約書を得る			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者と入居者様の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・転倒・転落事故の減少 ・介護職員の見守り業務の負担軽減による従業員満足度の向上 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・不要な訪室が減少することによる入居者様のプライバシーと安眠の確保 ・危険動作の予知による迅速な介助による安全確保、事故減少 ・事故が発生してしまった際に録画機能を利用した事故検証と再発防止策定 ・介護職員の見守り業務の負担軽減による、職場環境の改善と離職防止 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること (「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン (パイロット事業改訂版)」(厚生労働省老健局・令和2年3月発行)を参考にすること)

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1.91 : 1	2.1 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在はPC入力+手書き両方で記録をしているが介護記録ソフトと連携することにより、同時に記録を各所で多職種が情報共有することができる事を活かし、多職種が一カ所に集合しての申し送りが不要になる。 ・施設内のどこからでも情報へアクセスできることにより、施設内での職員の移動距離を減らすことで直接のケアに費やすことのできる時間が増え、人員体制の効率化につなげる事ができる。 ・現在は人員に限りがある為、センサーマットを多用しているが、見守りセンサーNeos+Careを導入することで、センサーマットより迅速に転倒リスクを感知し、事前に防ぐことが可能となる為、直接のケアに人や時間を割くことができ、人員の効率化につなげる事ができる。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間、入眠されているかの確認がモニターでできるようになる事で、廊下を何度も行き来し、頻繁に個室を訪れる必要がなくなる為、入居者様の安眠を妨げる事がなくなり睡眠の質の改善が見込まれる。それによって昼間の眠気が改善され、昼夜のメリハリが付きやすくなり、介護職員の負担軽減と、入居者様のQOLの向上の双方に寄与できる。 ・夜間は夜勤者1名体制で20名の入居者様に対応するため、異なる居室で同時にナースコールが鳴るとどちらを優先すべきかの判断が困難であるが、見守りセンサーによりモニターで様子が把握できる為、優先順位を的確に判断し駆けつけることができる。それにより転倒事故を未然に防ぐことで事故も減り、夜勤職員の事故に対する恐怖感・緊張感による精神的負担を大きく軽減できるとともに、入居者様に安全と安心を提供することが出来る。 ・定期巡視の時間の削減をし、夜勤職員の休憩時間の確保につなげる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・今までの感圧センサーでの寝返りの際の誤感知による発報の確認の時間や、巡視の際の眠りを妨げてしまう事で起こってしまうご入居者様への対応に要していた時間を、他のケアに使うことが出来る事で、職員の精神・肉体両面の負担軽減につながり、離職率を下げる事が期待される。 ・書面上とPC上で重複していた記録を共通化し、多職種がネットワーク上で共有することで情報の見える化とアクセシビリティ対応を図ることが出来る。 ・より正確で鮮度の高い情報を共有することにより、無駄な時間、作業を削減し、時間や体制に余裕が生まれ、より細やかで質の高いケアを提供でき、入居者様のQOLの向上につなげる事ができる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会医療法人愛生会)
 事業所名 (愛生複合型サービスセンター平安通)
 サービス種別 (看護小規模多機能型居宅介護)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		(株)モルテン : アメリア 83幅 MELA83	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年 月 日	1	令和3年12月15日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
令和2年4月に開設し利用者も増えてきた。要介護度が重く認知症の利用者も増えてきた。体圧分散機能があり、見守り機能を装備したアメリア MELA83を導入することにより利用者の方の転倒転落の防止、職員の業務負担の軽減に導入を計画している。			
【倫理面への配慮】			
利用者及びご家族に対して見守りロボットの導入の説明し転倒転落の事故の予防、軽減に理解していただく。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
1. 転倒転落事故の減少 2. 介護職員の身体的、心理的負担の軽減			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
1. 利用者のベッドからの転倒転落事故の軽減 2. 夜間帯での見守り業務の効率化と介護職員の精神的、身体的負担の軽減 3. 夜間時の見守りを減らし安心安全なサービスを向上させる			

介護ロボット導入計画書

法人名 (独立行政法人地域医療機能推進機構)

事業所名 (中京病院附属介護老人保健施設)

サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4		1 / 2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守りシステム			エスパシアシリーズ		
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年11月1日	2 /	令和3年11月1日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	
【事業概要及び導入スケジュール】					
<p>離床 CATCHⅢ搭載電動ベッド「エスパシアシリーズ」を導入し、夜間帯を中心にご利用者の転落・転倒事故防止と見守り業務の効率化を図る。</p> <p>令和3年9月申請 令和3年11月導入予定</p>					
【倫理面への配慮】					
<p>当製品を使用するご利用者やご家族に対し、システムの使用目的について説明を行い同意を得たうえで運用開始をする。</p>					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)					
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)					
<p>転倒転落事故の減少 介護職員の身体的・心理的負担の軽減</p>					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
<p>ご利用者の状態に応じたセンサー設定 (起き上がり・端座位・離床) により、正確なナースコール報知が可能となるため、転落・転倒事故の減少が期待される。また、夜間等の職員配置数が少ない場合など、必要時にナースコールが報知するため、介護職員の身体的・精神的負担軽減にもつながる。</p>					

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること (「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン (パイロット事業改訂版)」(厚生労働省老健

局・令和2年3月発行)を参考にすること)

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
日勤 看護師4名 介護員11名 夜勤 看護師1名 介護員3名	日勤 看護師4名 介護員11名 夜勤 看護師1名 介護員3名
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組(具体的に書く)	
<p>離床CATCHⅢ搭載電動ベッド「エスパシアシリーズ」を導入し、転落・転倒事故防止と見守り業務の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none">・センサー設定により、ナースコールにて早期体動の感知が可能・転倒・転落事故予防と早期発見	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>離床CATCHⅢ搭載電動ベッド「エスパシアシリーズ」を導入し、転落・転倒事故防止と見守り業務の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none">・センサー設定により、ナースコールにて早期体動の感知が可能・転倒・転落事故予防と早期発見・介護職員の身体的・精神的負担の軽減	
これらの取組により期待される効果等	
<p>ご利用者の状態に応じたセンサー設定(起き上がり・端座位・離床)により、体動に対してナースコール報知が可能となるため、転落・転倒事故の減少及び早期発見が期待される。日勤帯においても、コール報知が可能となるため常に利用者を見守る必要性が減り、その時間を他のケアを充実させることができ、残業時間の削減も図れる。夜間等の職員配置数が少ない場合など、必要時にナースコールが報知するため、介護職員の身体的・精神的負担軽減にもつながる。また、利用者に対して素早く対応することにより、利用者の満足度の向上にもつながる。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人明翠会)

事業所名 (地域密着型特別養護老人ホームなのはな苑むつみ)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		「眠りSCAN (NH-1320)」 パラマウントベッド社製	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年9月1日	29台	令和3年9月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>【事業概要】 機器導入により、入居者様の睡眠状態・呼吸状態・心拍状態が可視化され適切な支援を行う事が出来る。また、適切な支援が行われることにより業務が効率化され、スタッフの心身の負担軽減を図ることができる。</p> <p>【導入スケジュール】 R3年5月13日 (リーダー向け研修会)、R3年5月27日～6月20日 (全ユニットデモンストレーション)、R3年8月内示・通知後速やかに発注・導入。 導入前に機器使用の目的や使用方法等事前研修を行う。</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>使用目的を入居者様・ご家族様に説明し同意を得たうえで使用する。 機器使用により得た情報に関して、プライバシーに配慮し厳重に扱う。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
<p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の夜間の睡眠状態を把握することにより、入居者様個々の夜間の対応及び日中の活動内容及びサポート内容を改善する。 ・PCモニターやタブレットの定期確認及び通知により、睡眠や呼吸・心拍状態を把握し訪室による夜間巡視回数を減らす。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの個別ケア推進の意識が高まり、サービスの質が向上される。 ・適切な巡視やタイムリーな支援により、スタッフの心身の負担軽減が図れる。 ・終末介護におけるきめ細やかな対応が可能になる。 ・危険予知により、転落や転倒が防止される。 ・多職種や家人に対し、根拠を持った報告・相談ができる。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 観寿々会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム ヴェルバレー)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4		1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名			
見守り支援		Neos+Care (ネオスケア)			
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年10月1日	2台	令和3年9月1日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	

【事業概要及び導入スケジュール】

(事業概要)

利用者の居室内での転倒・転落事故を予防し、安心、安全な生活を送っていただけるようにケアプランに位置づけをしてゆく。また、職員が利用者の行動を把握し、業務の効率・不要な訪室をなくし、安心してケアができるように職場の環境の改善にもつながる。

(導入スケジュール)

令和3年6月 申請
 令和3年8月 導入に向けた使用説明会
 令和3年9月 購入
 令和3年10月 導入開始 フォローアップ研修

【倫理面への配慮】

利用者・家族に対して、機器の性能・導入に際しての注意事項の説明をし、同意いただいた方より順次使用してゆく。個人情報として映像は記録されるが、シルエット映像であるため、個人を特定されにくい点もしっかりと説明してゆく。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

利用者個々の状態に合わせ、アセスメントして、必要な方のピックアップができ、利用者への説明と安全な使用ができるようにする。

利用者の居室内の生活動作で、不安定な立ち上がり、起居動作をする時間帯がデータとして残るため、先回りしたケアの提供ができるようになる。

機器を導入することでの業務の効率化・軽減を図り、働き方の改革につなげる。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- ・自己動作での転倒・転落事故の減少により、利用者、職員の身体的負担の軽減ができる。
- ・転倒事故等の詳細を記録するため、発生時の状況が的確に伝えられ、早期対応ができる。
- ・職員の身体的・精神的負担の軽減。
- ・生活パターンの把握により、ケアの必要の優先順位がつけられ安心できる。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人共愛会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム第2共愛の里)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 / 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		眠りスキャン (N-1320) / 眠りスキャン eye (KX-Z8192)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年2月1日	セット30台 眠りスキャンのみ10台	令和4年1月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>事業概要：従来型120床施設にて、設備的に死角になる居室が多く距離も遠い。ナースコールが鳴っても駆け付けるまでに時間がかかる。特に夜間帯は限られた職員での見守り巡視を行う。転倒リスク高い方や体動激しい方の訪室回数多く業務負担も多い。看取り期の入居者への対応で従事者の身体的・精神的な負担も大きい。見守りシステムを導入することで入居者の睡眠状態等を把握し夜間帯の見守り業務の効率化を図る。特に一人待機の時間に見守りの目を増やすことが可能となる。プライバシーや尊厳に配慮しながら居室内を可視化することで、入居者の安全と安眠を確保し、より快適な生活を提供する。</p> <p>導入スケジュール：電子カルテ、ナースコール、眠りスキャンを連動するためナースコールの入れ替えと同時に行う。半導体の不足によりナースコールの入荷が困難であり年明けを予定。導入前に入居者と家族へ眠りスキャンの説明を行い同意を得る。また、従事者への事前研修を行い操作が円滑に行えるように準備する。</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>入居者・家族に対して、導入機器やプライバシーへの配慮、また使用目的や導入効果、取得した睡眠データや映像の利用方法について説明を行い、同意を得たうえで使用する。取得した情報は規定に基づき厳格に管理を行う。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ol style="list-style-type: none"> ① 夜間帯従事者の身体的・精神的の負担軽減を図る。 ② 労働環境の整備 (ICT化推進) による介護人材の確保 ③ 入居者の居室内における行動予測による事前対策効果により、重大な転倒転落の削減 ④ 適切なケアの提供による入居者のQOL及びCSの向上 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			

- ・睡眠状態の把握により覚醒時の排泄介助やおむつ交換が可能になり、入居者の安眠が確保できる。
- ・夜間帯の定期巡視を減らすことで、従事者の負担軽減と入居者の安眠・良眠が確保される。
- ・看取り期の入居者の状態把握ができることで、特に夜間帯における従事者の精神的な負担軽減と適切なタイミングで関わりや対応ができる。
- ・転倒リスクの高い入居者に対して、「眠りスキャン eye」を同時使用することでベッド上等の動作時にすぐ映像確認できるため、緊急対応の必要性の可否や瞬時に適確な判断材料が期待でき、適切なケアの提供ができる。
- ・居室内の見える化で、従事者の身体的・精神的な負担軽減が期待される。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
常勤職員 40名（夜勤可 29名） 非常勤（短時間パート） 6名	常勤職員 40名（夜勤可 29名） 非常勤（短時間パート） 6名
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>令和2年度導入済のケアカルテとの連動により、眠りスキャンのデータがケアカルテに記録されていくことで睡眠リズムを把握できる。データに基づいた夜間帯での排泄介助や、日勤帯での適切な関わりで夜間帯の良眠を促す。映像で確認することで、緊急対応の的確な判断ができるとともに不必要な訪室回数を減らせる。入居者の行動を予測した介護職員の関わり方が変化し、身体的な負担軽減が図れることで効率化につながる。また、センサー・ケアカルテの連携により手書き部分で転記等の時間の削減から入居者への関わりの時間が増える。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>夜間帯の1人待機時間でも、見守りカメラ導入により見守りの目を増やすことが可能になり、交代での休憩時間の確保が可能となる。また、睡眠リズムの把握により不必要な巡視で安眠の妨げを防ぐことができる。覚醒時での適切な排泄介助にて良眠確保につなげる。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>介護職員の経験や勘に頼る動きではなく、ICT化によりデータを活用した介護職員の行動の標準化につながる。記録にかかる時間の短縮につなげることで入居者と関わる時間の確保、見守り支援システムデータが電子カルテで情報が一括に管理でき、データに基づく効率的な介護を行うイメージの変化を期待する。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人和光会)
 事業所名 (介護老人保健施設清風苑)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4		1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名			
見守り支援		エスパシアシリーズベッド (離床センサー内蔵) (パラマウント株式会社)			
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年11月1日	35台	令和3年11月1日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	
【事業概要及び導入スケジュール】					
事業概要 ベッドに内蔵された離床CATCHⅢを使用する事で、利用者の動向に合わせた起き上がりや離床の動作を把握して、職員が少ない夜勤帯での利用者の状況を把握する事で、転落や転倒の事故防止の為の見回り業務を効率化する事が出来る。					
導入スケジュール 補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和3年11月導入予定)					
【倫理面への配慮】					
ベッドを使用する際に利用者及び家族へシステム等の説明をし理解を得る。					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)					
①利用者の転倒及び転落事故の減少 ②看護・介護スタッフの身体的・精神的負担の軽減					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
①利用者ごとの日常の動作に合わせた設定をする事で、起き上がりや離床等により正確なナースコール設定が可能となり、転倒・転落事故が減少する。 ②利用者が必要とする時(起き上がりや離床時)にナースコールとして作動する為、介護職員の見守り等の身体的・精神的負担を軽減させる事が出来る。					

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.8:1 /	2.9:1 /
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>夜勤帯の見守りについて、約1時間おきに訪室しているが、職員にとっては肉体的・精神的な負担が大きく、また利用者の安眠を妨げている可能性があった。エスパシアシリーズベッド（離床センサー内蔵）を導入する事に伴い、利用者の状態をナースコールを通じモニタリング出来、不必要な訪室を軽減する事が出来る等、業務改善を図る取組を行う。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>夜勤帯における不要な訪室が減少する事に伴い、利用者の安眠につなげる事が出来る。また職員もムダな訪室を減らす事が出来、確実な休憩時間の確保や肉体的な負担の軽減につなげる事が出来る。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>夜勤に従事する職員の精神的・肉体的負担を軽減する事が出来、離職率の低下につながり、また60歳以上の職員においても引き続き夜勤を継続する事が期待できる。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人和光会)
 事業所名 (介護老人保健施設清風苑)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4		1 / 2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守り支援			見守り支援システム「眠り SCAN」		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年11月1日	2台	令和3年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで		
【事業概要及び導入スケジュール】					
事業概要 見守り支援システム「眠り SCAN」を使用する事により、利用者様の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）をリアルタイムで可視化し、業務の効率化、介護従事者の負担を軽減する。また状況に合わせてのケアを行う事により、利用者様に提供するケアの質の向上を図る。					
導入スケジュール 補助金交付決定後、速やかに導入する。（令和3年11月導入予定）					
【倫理面への配慮】					
ご利用者様及びご家族様に対し使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用する。					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】（3年間目処）					
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等)					
リアルタイムに可視化される利用者様の状況に合わせて、個別ケアを行い、ご利用者様の夜間の睡眠を妨げない様、介護を実施する。また、夜勤職員の業務の効率化、精神的・身体的な負担を軽減させることを目標とする。					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					
<ul style="list-style-type: none"> ●利用者様の睡眠、呼吸、心拍状況の把握 ●利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現 ●職員の精神的、身体的な負担の軽減 					

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2.8 : 1	2.9 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>夜勤帯の見守りについて、約1時間おきに訪室しているが、職員にとっては肉体的・精神的な負担が大きく、また利用者の安眠を妨げている可能性があった。眠りスキャンを導入する事に伴い、利用者の睡眠状態をモニタリング出来、熟睡している時は訪室しない等、業務改善を図る取組を行う。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>夜勤帯における不要な訪室が減少する事に伴い、利用者の安眠につなげる事が出来る。また職員もムダな訪室を減らす事が出来、確実な休憩時間の確保や肉体的な負担の軽減につなげる事が出来る。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>夜勤に従事する職員の精神的・肉体的負担を軽減する事が出来、離職率の低下につながり、また60歳以上の職員においても引き続き夜勤を継続する事が期待できる。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人地域福祉コミュニティほほえみ)
 事業所名 (地域密着型特別養護老人ホームひらばりみなみ)
 サービス種別 (地域密着型老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 / 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り介護ロボット aams	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年9月 ³⁰ / ₁₅ 日	10	令和3年8月31日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

・事業概要

見守り介護ロボット aams を導入し、転倒・転落事故の予防を図ると共に、これまで詳細な把握が困難であった睡眠や生活リズム、生体情報を把握することで、職員の負担軽減と業務の効率化、個別のケアの質向上に繋げていく。

・スケジュール

交付決定の承認後、無線工事完了後、速やかに導入及び取扱説明会を実施し運用する。以降、随時フォロー研修会を実施し、運用の適正化を図っていく。

【倫理面への配慮】

利用者様への非接触・非拘束等の扱いの為、人権（尊厳）への配慮。

また、カメラ等の使用もないため、プライバシーの侵害への配慮。

また蓄積されたデータの取り扱いには厳重に注意していく。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等)

見守り介護ロボット aams を導入する事で、認知症患者への対応の迅速化、また介護従事者への時間短縮、精神的・肉体的ストレスの軽減ができ円滑な見守りが可能になる。

業務負担軽減による職員の意欲向上と離職率の低下を図る。また個別ケアの質を上げると同時に転倒や転落事故を未然に防ぐ体制作りを構築する。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

利用者の急な状態変化をアラート通知され、また毎日の睡眠状態の記録を残すことも出来る為、体調・生活状況の管理を強化でき、個別のケアが実現できる。

またそのデータを元に、日々の状況をご家族様へ報告する事も可能となる。

またモニターで状態確認ができる為、夜間時の訪室業務の負担軽減、介護者のストレス軽減にも繋がります。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
5:2	3:1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>見守りセンサーaams で得た情報をスマホで操作・閲覧し、また介護記録ソフトも含めて情報管理を行う。職員間の連絡、情報伝達をインカムで行うことで業務のダブリや無駄な訪室などを削減する。</p> <p>これにより夜勤の最低基準に加えて配置する人員を利用者10人に対して1人とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職員：日中2.3人（7%の減） 介護職員：日中9人、夜間3人（19%の減） 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の残業時間：平均1.5時間/8時間勤務（25%の減） ・夜間の巡回回数：合計20回（34%の減） <p>（具体的な取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録作成業務のタイミングと訪室のタイミングや回数を見直すことで、残業時間を一人当たり1日30分短縮する。 ・利用者のケアの質の向上を目指す委員会を設置し、3ヶ月に1回開催して現場にフィードバックすることで、ケアの質の向上を図る。 ・aams を活用した生活リズムや状態把握を活用して個々に合わせた介護プランを作成し、介護記録との照らし合わせを実施しながら、よりの確且つ細かなケアを実現させる。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> ・業務の無理・無駄・ムラを低減させることで職員の意欲向上、精神的・肉体的な負担を減らし離職率を抑え継続性のあるケアを実現できる。 ・ICT機器を上手く組み合わせることで職員の意識や知識の統一化が図れる為、職員のレベルに左右されない環境が整備できる。 ・限られた勤務時間の中で情報伝達がスムーズに出来ることにより、ケアに携わる時間の配分を効率的に行える。これにより職員の心の余裕を創り出すことができ、今まで以上に積極的に利用者に関われる機会を生み出すことが可能となる。 	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人順明会)
 事業所名 (指定介護老人福祉施設 ジャルダン・リラ)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り		眠りSCAN	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月 1日	35 -50	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>ベッドからの転倒に対するヒヤリハットが多いことから「眠りSCAN」を使用することにより、利用者様の起き上がり動作を検知して危険挙動をリアルタイムで把握することによって職員の巡視の負荷を軽減することで業務の効率化を図ると共に介護職員の事故に対する精神的な負荷の軽減を図る事ともに入居者様のケアの質の向上に資することが出来ることを企図します。</p> <p>導入スケジュール 補助金交付決定次第、速やかに導入する。(令和3年度 12月導入予定)</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>入居者ご家族様へカタログ当を使用し書面等で説明し了承を得た上で使用していきます。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の睡眠状況を把握することで夜間不眠に対してはケアプランを見直し適正なケアに務める。 ・夜間巡視の際に、認知症の入居者様が目を覚まし不穏になることを防ぐ。 ・夜勤職員の巡視負担の軽減 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<p>入居者様の不眠状況を把握した上で対策していくことで日中活動を充実させる。 認知症の入居者様の転倒を予防できる効果が期待されることから職員の負荷が軽減される。</p>			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
3.1 : 1	2.9 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
見守りセンサー「眠りSCAN」を使用することで部屋への不要な訪問をさけることが出来る 夜勤帯に集中している介護職員の事務的作業が見守りセンサーの導入により適宜の巡視を実施していくことにより効率的に事務業務を展開することが出来る。	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
パソコンやモバイル端末を使用することでリアルタイムの入居者様の情報を把握できるようにしご利用者の安全確保を確認することが出来ると共に「事故が起きているかもしれない」という職員の不安を解消することで精神的、肉体的な負担を軽減させることが出来る。 リアルタイムに送られてくる入居者様の情報に合わせて巡視を行うように業務マニュアルを変更する。	
これらの取組により期待される効果等	
これまで入居者様の夜間帯の様子はこれまでの経験則等で判断していたが眠りスキャンを使用することでリアルタイムに送信されてくる情報によりケアを実施することが出来ると考えます。これは入居者様のケアの質の向上のみならず職員の負担軽減にもなります。又、職員の負荷の軽減により高齢な職員でも夜勤が可能となることが期待されます。	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 貞徳会)
 事業所名 (明範荘特別養護老人ホーム)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4		1 / 2	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
見守り			眠りSCAN/眠りSCAN eye (バラマウントベッド株式会社)		
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年9月1日	12台	令和3年9月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで		
【事業概要及び導入スケジュール】					
【事業概要】 見守りロボットの増設とともに、同機器と連動するカメラシステムシステムを新たに導入することで、利用者の睡眠状態や生活リズム、危険行動の状況について、プライバシーや尊厳に配慮しながら具体的に可視化して、安眠や安全を確保し、快適な施設生活を支援する。					
【導入スケジュール】 令和3年 9月 交付決定 (交付決定後、速やかに発注) 納品 (機器の設置及びアプリのインストール) 家族会等で説明、カメラを使用する場合は同意取得、従業員への取扱説明 10月 運用開始					
【倫理面への配慮】 ご家族が集まる場面 (家族会) 等で使用目的・方法や取得した睡眠・生活・心拍や映像データの管理・活用方法や同機器の導入効果についての説明を行います。連動のカメラシステムを使用する場合には利用者また家族から同意書を取得します。 利用者の個々の使用状況については、支援経過を家族説明する際に、取得したデータを提供して具体的に生活状況等を報告すると共に、データ値に基づいたケアの展開方法等を丁寧に説明します。					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)					
①重大事故の発生件数を減少させる [利用者満足度向上・苦情トラブルの回避] ②事故説明担当者の負担軽減を図る [業務効率化・苦情トラブルの回避] ③介護職員の見守り業務における心身の負担を軽減させる [業務効率化・離職防止] ④ICTを活用した科学的介護の実践に活用し、適切な支援を行う [業務効率化・利用者満足度向上]					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】 ・睡眠や生活リズムの把握と共に、個室内での起居・離床動作を可視化することで、適切な支援方法が選択でき、介護事故の減少につながる。 ・家族へ生活状況や事故経緯を説明する際、データや映像を活用する事で、納得が得やすい説明ができる ・夜間の職員配置が少ない時間帯に、効率的に巡視ができ、効果的な利用者対応ができる。また、利用者の安眠確保にもつながる。 ・看取り期の利用者の状態が把握することで、職員の精神的負担や具体的な家族支援が行える。					

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
介護職員：利用者定員／2. 10：1	介護職員：利用者定員／2. 10：1（現状維持）
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>眠りSCAN及び眠りSCANeyeを活用して、各利用者の睡眠・生活パターンを把握し、個々のリズムに合わせて起居・就寝・排せつ等を支援すること、遠隔からセンサー・カメラを通じて見守りを行い、必要に応じて定期巡視（訪室）することをマニュアル化し、介護ロボットの効果的な運用と業務の効率化を図る。</p> <p>また、眠りSCANeyeを利用して、実際の行動履歴や事故状況を動画記録することで、効果的な事故防止対策を図り、大事故を未然に防ぐ。万が一、事故発生した際には、客観的な記録や情報から家族説明や行政報告する事で、事故対応担当者の負担軽減を図る。</p> <p>上記の運用を実施したうえで、業務時間調査を行い、夜勤者の配置数について削減を検討する。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>上記の業務効率化を進める事によって、利用者と直接関わって支援できる時間を増加させ、ケアの質の向上に取り組む。具体的には、利用者の要望に沿った支援を行ったり、コロナ禍により活動が制約される状況のなか、生活が不活発とならないよう、日常生活動作のなかでの動作補助（生活リハビリ）や余暇活動（レクリエーション）を行ったりする等、利用者のQOLやADLの維持向上に努める。</p> <p>また、業務効率化により職員の休憩時間の確保と共に、職員教育や研修の時間を創出し、介護ロボットの有効活用やエビデンスに基づいたケア実践について、知識や技術を深める事で、より効果的に介護ロボットやICTの活用、科学的な介護実践の定着を図る。</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>利用者へエビデンスに基づいたケア実践や、接遇を改善させることで、利用者の心身の健康保持による在所期間の延長や利用率、利用者満足度（CS）の向上が図れる。</p> <p>利用者満足度の高いケア実践が行えれば、自ずと介護職員のやりがいや達成感も高まり、職員の満足度の向上にも繋がる。</p> <p>これらの成果が、介護の仕事の魅力を創出し、介護職員の待遇改善を図る形となり、結果的に介護職員の定着や確保、安定した施設運営基盤づくりに寄与される事を期待する。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人かなえ福祉会)
 事業所名 (ショートステイ すないの家 春日井)
 サービス種別 (短期入所生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		テクノスジャパン コールマット・コードレス HC-R MS1200R	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	6台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>・事業概要 日中・夜間の利用者の転落・転倒事故を未然に防止する。</p> <p>・導入スケジュール 補助金交付決定後、速やかに導入する。予定令和3年12月1日。</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>入居者様及び家族様に機能と使用目的の説明を行い、ご理解して頂いた上で適切に使用していく。</p>			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処) (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
<p>利用者様の転倒・転落事故を減少させる。 職員の肉体的・精神的介護負担の軽減させることで、介護職員人材の雇用定着化をさせていく</p>			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<p>機器の導入により、特に夜間帯の見守り業務の効率化と介護職員の介護負担の軽減が期待される。</p>			

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 長寿会)

事業所名 (特別養護老人ホーム シルバーピアみずほ)

サービス種別 (介護老人福祉施設【ユニット型】)

適用を受けようとする補助率		3 / 4 ・ 1 / 2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り支援		見守り支援システム眠り SCAN (パラマウントベッド社製)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年12月1日	眠り SCAN 10台	令和3年12月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

見守り支援システム「眠り SCAN」を使用することにより、利用者様の情報（睡眠・覚醒・起き上がり・離床・呼吸数・心拍数）をリアルタイムで可視化し、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。また、状況に合わせてのケアを行うことにより、利用者様に提供するケアの質の向上を図る。

導入スケジュール

補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和3年12月1日導入予定)

【倫理面への配慮】

ご利用者様及びご家族様に対し使用目的の説明を行い、ご理解を頂いた上で適切に使用する。

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

リアルタイムで可視化される利用者様の状況に合わせ、個別ケアを行い、ご利用者様の夜間の睡眠を妨げないよう介護を提供する。また、夜勤職員の業務の効率化、精神的、身体的な負担の軽減をさせる事を目標とする。

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

- ・利用者様の睡眠・呼吸数・心拍状況の把握。
- ・利用者様の様子を映像にて把握。
- ・利用者様の睡眠状況に合わせた個別ケアの実現
- ・職員の精神的・身体的な負担の軽減

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 悠)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 結いの郷)
 サービス種別 (地域密着型入所者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 ・ 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		眠りスキャン	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年9月1日	1	令和3年8月20日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
(1)事業所内に Wifi 通信環境を整備し、介護記録ソフトの導入を進める。各ユニット内にてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする (2)職員間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカムを12台導入予定。また、イヤホンジャックについては、各職員向けにて用意 (3)眠りスキャン (パラマウント製) と導入を予定している介護記録ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動することから、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減も併せていく。 令和3年5月 各見積 令和3年6月 補助事業申請 令和3年8月下旬 各種契約→Wifi 通信環境工事施工 令和3年9月上旬 各機器導入及び設定			
【倫理面への配慮】			
夜間帯落ち着かず、なかなか眠ることのできない入居者に対して、適切に支援に入ることを目的とする。むやみに定時訪室を行うことで、結果安眠を妨害してしまうことも考えられる。 入居者自身の羞恥心に配慮し、監視するものではない面を徹底する			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)			
1) 間接支援の軽減 (記録、職員間のコミュニケーションの情報共有) を目標とする。 2) 間接支援の軽減に加え、直接支援の質の充実を目標とする 3) 職員に対する間接支援の軽減に伴う満足度アンケートを導入半年後、1年後と行う。 質の向上に繋がる結果として、入居者及びご家族に対しても満足度アンケートを半年後、1年後と行う			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			

従来介護記録を手書きで行ってきた。また、各種計画書類もそれぞれ独自の Excel にて連動性に欠けていたため、今回導入に伴い、それぞれの間接支援を軽減することで、職員一人一人が直接支援に集中できる環境を準備したい。結果、事業所全体における質の向上を目的として、暮らす場所における入居者 QOL の向上に努めていきたい。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
1. 62 : 1	1. 5 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>現在生活支援員（介護）（看護）＝直接処遇職員の体制として、上記配置となっております。</p> <p>当事業所においては、ユニット型特別養護老人ホームであり、3 ユニット/29 人の入居者が過ごされています。</p> <p>3 つのユニット（家）が分離されており、それぞれの玄関口より日中は出入りしております。また、夜間帯については、各玄関口を施錠し、内扉を利用して支援をさせて頂いております。</p> <p>日中、各家が独立していることから、インカムを活用して、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていきたい。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト導入することで、ケアプラン⇒24H シート⇒生活記録の一連の流れを通して、間接支援の軽減に努めていきたい。各ユニット（家）内で、i-pad を活用し記録の記載を行う。また、「ほのぼのシリーズ」「ケアパレット」にてホストコンピュータとの記録の連動を行う。眠りスキャンにおいて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努める。結果、直接支援の質の担保に繋げていく。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>現在、夜勤配置を 3 ユニット（29 人）に対して 2 名で行っている。眠りスキャンを始めとして、介護ロボットの積極的な利用にすることで、間接支援を減らし、直接支援を充実し、質の維持をすることで、職員一人一人の福祉のやりがいに繋げていきたい。結果、夜勤配置を 3 ユニット（29 人）に対して 3 名体制を構築することで、未経験や新入職員にとっても安心して支援できる環境を整え、しっかりと休憩を取れるような体制に繋げていきたい。また、職員の定着に際し、間接支援を減らすことで、法定研修に加えて、基本的な介護技術、知識の研修など、未経験の職員においても、必要資格を取得していくための、社内研修の充実、社外研修への積極的な参加を以て、ひとり一人のスキルアップに繋げていきたい。</p> <p>※夜勤（21:00 - 7:00）</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>上記にも記載の通り、介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。</p> <p>あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わる事が出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかりと関わることで出来る環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わる事が出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社 安芳)
 事業所名 (介護付有料老人ホーム永遠の郷)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4 · 1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守り・コミュニケーション		パラマウントベッド 眠りスキャン NN-1320	
導入時期 (予定)	導入台 (セット) 数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年10月20日	1	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

- (1) 事業所内に Wi-fi 通信環境を整備し、介護記録ソフトの導入を進める。各ユニット内にてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする
- (2) 職員間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカムを12台導入予定。また、イヤホンジャックについては、各職員向けにて用意
- (3) 眠りスキャン (パラマウント製) と導入を予定している介護記録ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動、そしてセンサーベッドを活用し、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減も併せていく。
- 令和3年5月 各見積
 令和3年6月 補助事業申請
 令和3年9月下旬 各種契約 → Wifi 通信環境工事施工
 令和3年10月上旬 各機器導入及び設定

【倫理面への配慮】

夜間帯落ち着かず、なかなか眠ることのできない入居者に対して、適切に支援に入ることを目的とする。むやみに定時訪室を行うことで、結果安眠を妨害してしまうことも考えられる。入居者自身の羞恥心に配慮し、監視するものではない面を徹底する

【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

- 1) 間接支援の軽減 (記録、職員間のコミュニケーションの情報共有) を目標とする。
 - 2) 間接支援の軽減に加え、直接支援の質の充実を目標とする
 - 3) 職員に対する間接支援の軽減に伴う満足度アンケートを導入半年後、1年後と行う
- 質の向上に繋がる結果として、入居者及びご家族に対しても満足度アンケートを半年後、1年後と行う

【介護ロボットの導入により期待される効果等】

従来介護記録を手書きで行ってきた。また、各種計画書類もそれぞれ独自の Excel にて連動性に欠けていたため、今回導入に伴い、それぞれの間接支援を軽減することで、職員一人一人が直接支援に集中できる環境を準備したい。結果、事業所全体における質の向上を目的として、暮らす場所における入居者 QOL の向上に努めていきたい。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 0 : 1	1. 6 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>現在生活支援員（介護）（看護）＝直接処遇職員の体制として、上記配置となっております。</p> <p>当事業所においては、介護付有料老人ホームであり、1フロア/30人の入居者が過ごされています。</p> <p>平成17年より事業を開始しており、建物の造りとして、平屋建て1フロア（2ブロック）にて構成されており、非常に動線も長い環境下にて日常の支援をしております。</p> <p>30名の入居者を平屋での環境下で、支援員同士を互いに情報を共有するため、インカムを活用して、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていきたい。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト導入することで、ケアプラン□日課計画表□生活記録の一連の流れを通して、間接支援の軽減に努めていきたい。フロア内で、ipadを活用し記録の記載を行う。また、「ほのぼのシリーズ」「ケアパレット」にてホストコンピュータとの記録の連動を行う。眠りスキャンを用いて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努める。結果、直接支援の質の担保に繋げていく。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>現在、夜勤配置を30人に対して2名で行っている。眠りスキャンやセンサーベッドの活用、介護ロボットの積極的な利用にすることで、間接支援を減らし、直接支援を充実し、質の維持をすることで、職員一人一人の福祉のやりがいに繋げていきたい。結果、夜勤配置を1フロア（30人）に対して3名体制を構築することで、未経験や新入職員にとっても安心して支援できる環境を整え、しっかりと休憩を取れるような体制に繋げていきたい。また、職員の定着に際し、間接支援を減らすことで、法定研修に加えて、基本的な介護技術、知識の研修など、未経験の職員においても、必要資格を取得していくための、社内研修の充実、社外研修への積極的な参加を以て、ひとり一人のスキルアップに繋げていきたい。</p> <p>※準夜勤（21:00 - 6:00）夜勤（15:50 - 9:30）組み合わせにて行っている</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>上記にも記載の通り、介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。</p> <p>あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わる事が出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかり関わることで出来る環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わる事が出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社 安芳)

事業所名 (介護付有料老人ホーム永遠の郷)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

適用を受けようとする補助率		3/4		1/2	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名			
見守り・コミュニケーション		センサーベッド パラマウントベッドベッド エスパシアシリーズ			
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)		
令和3年10月20日	29	令和3年10月1日	令和 年 月 日から	令和 年 月 日まで	
【事業概要及び導入スケジュール】					
<p>(1) 事業所内にWi-fi通信環境を整備し、介護記録ソフトの導入を進める。各ユニット内にてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする</p> <p>(2) 職員間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカムを12台導入予定。また、イヤホンジャックについては、各職員向けにて用意</p> <p>(3) 眠りスキャン (パラマウント製) と導入を予定している介護記録ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動、そしてセンサーベッドを活用し、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減も併せていく。</p> <p>令和3年5月 各見積</p> <p>令和3年6月 補助事業申請</p> <p>令和3年9月下旬 各種契約→Wifi通信環境工事施工</p> <p>令和3年10月上旬 各機器導入及び設定</p>					
【倫理面への配慮】					
<p>夜間帯落ち着かず、なかなか眠ることのできない入居者に対して、適切に支援に入ることを目的とする。むやみに定時訪室を行うことで、結果安眠を妨害してしまうことも考えられる。入居者自身の羞恥心に配慮し、監視するものではない面を徹底する</p>					
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】 (3年間目処)					
(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)					
<p>1) 間接支援の軽減 (記録、職員間のコミュニケーションの情報共有) を目標とする。</p> <p>2) 間接支援の軽減に加え、直接支援の質の充実を目標とする</p> <p>3) 職員に対する間接支援の軽減に伴う満足度アンケートを導入半年後、1年後と行う。</p> <p>質の向上に繋がる結果として、入居者及びご家族に対しても満足度アンケートを半年後、1年後と行う</p>					
【介護ロボットの導入により期待される効果等】					

従来介護記録を手書きで行ってきた。また、各種計画書類もそれぞれ独自の Excel にて連動性に欠けていたため、今回導入に伴い、それぞれの間接支援を軽減することで、職員一人一人が直接支援に集中できる環境を準備したい。結果、事業所全体における質の向上を目的として、暮らす場所における入居者 QOL の向上に努めていきたい。

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
2. 0 : 1	1. 6 : 1
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<p>現在生活支援員（介護）（看護）＝直接処遇職員の体制として、上記配置となっております。</p> <p>当事業所においては、介護付有料老人ホームであり、1フロア/30人の入居者が過ごされています。</p> <p>平成17年より事業を開始しており、建物の造りとして、平屋建て1フロア（2ブロック）にて構成されており、非常に動線も長い環境下にて日常の支援をしています。</p> <p>30名の入居者を平屋での環境下で、支援員同士を互いに情報を共有するため、インカムを活用して、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていきたい。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト導入することで、ケアプラン□日課計画表□生活記録の一連の流れを通して、間接支援の軽減に努めていきたい。フロア内で、ipadを活用し記録の記載を行う。また、「ほのほのシリーズ」「ケアバレット」にてホストコンピュータとの記録の連動を行う。センサーベッド（エスバシアシリーズ）を用いて、居室内にあるお手洗いにいられる際、タイミングよく支援介入できる。離床センサーと介護ソフトの連動を図り、職員の動線の効率化も図ることができる。職員にとっての業務負担の軽減と、入居者にとって必要な支援を遅滞なく行える取組を図る。</p>	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<p>現在、夜勤配置を30人に対して2名で行っている。眠りスキャンやセンサーベッドの活用、介護ロボットの積極的な利用にすることで、間接支援を減らし、直接支援を充実し、質の維持をすることで、職員一人一人の福祉のやりがいに繋げていきたい。結果、夜勤配置を1フロア（30人）に対して3名体制を構築することで、未経験や新入職員にとっても安心して支援できる環境を整え、しっかりと休憩を取れるような体制に繋げていきたい。また、職員の定着に際し、間接支援を減らすことで、法定研修に加えて、基本的な介護技術、知識の研修など、未経験の職員においても、必要資格を取得していくための、社内研修の充実、社外研修への積極的な参加を以て、ひとり一人のスキルアップに繋げていきたい。</p> <p>※準夜勤（21:00 - 6:00）夜勤（15:50 - 9:30）組み合わせにて行っている</p>	
これらの取組により期待される効果等	
<p>上記にも記載の通り、介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。</p> <p>あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくりに関わることが出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりに関わることのできる環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わることが出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。</p>	

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人フロンティア)
 事業所名 (特別養護老人ホームみなとの憩)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

適用を受けようとする補助率		3 / 4	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
見守りシステム		無線コールシステム「あんしんの絆」ワイヤレス人感センサー	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和3年10月1日	29	令和3年10月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>○事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 見守りシステムの導入により、見守り業務（特に夜勤帯）の業務効率の向上、利用者様の安心安全な住環境整備、介護職員の生産性向上ならびに負担軽減を図ります。 強力な無線 LAN 環境を整備し、施設内全域において、見守りシステムと職員が保有する携帯端末が円滑にネットワークアクセス出来る通信環境を整備します。 <p>○導入スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年9月上旬 交付決定（交付決定後、速やかに業者へ発注） 令和3年9月中旬 工事実施（工期は約2週間）ご入居者様ご家族様に、システム導入説明ならびに同意受託 令和3年10月1日 運用開始（1か月試用期間） 令和3年11月1日 本格運用開始（シフト変更） 			
【倫理面への配慮】			
入居者様、ご家族様に、システム概要並びに使用目的について説明を行い、同意を得た上で導入します。			
【介護ロボットの導入により達成すべき目標】（3年間目処） （介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等）			
<ul style="list-style-type: none"> 見守りシステムを効率的に運用することにより、利用者様の転倒転落事故等の発生を抑制し利用者様や家族様に安心安全を提供し、介護サービスの質の向上を目指します。 見守りシステム導入により、夜勤職員の労務負担を軽減すると同時に、3階における夜勤シフトを削減することにより、施設全体で労務負担の軽減を図ります。 			
【介護ロボットの導入により期待される効果等】			
<ul style="list-style-type: none"> ナースコールが同時に発生した場合、瞬時に優先度を把握し、事故防止が期待されます。 万が一事故が発生した場合、その原因分析を行い、再発防止策を講じることが出来ます。 不要な訪室を減らすことにより、利用者様のより質の高い睡眠を提供出来る。 			

(注)・導入する介護ロボットごとに作成すること。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けようとする場合のみ記入すること（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること）

従前の介護職員等の人員体制	介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制
深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 1人 4階 1人	深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 0人 4階 1人
見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化に関する取組（具体的に書く）	
<ul style="list-style-type: none"> 無線コールシステム「あんしんの絆」の最大の特徴は、ナースコール呼び出し時において、同時進行的に居室の可視化を図ることにより、職員が訪室の優先度を施設のどの場所においても、瞬時に判別できることにあります。 特に夜勤時において、当該職員は、手持ちの携帯端末を外線電話と連動することにより、施設外線電話、ナースコール、居室内の状態確認が、瞬時に対応出来ます。 また、素早く訪室することにより、転倒転落事故を未然に防ぐことも可能となり、一人一人の職員の介護サービスの質が飛躍的に向上すると同時に、生産性向上にもつながります。 結果として、当施設では、これまで原則、1ユニット1名（施設全体3ユニット3名）の夜勤職員体制をしてきましたが、本システム本格導入後、夜勤体制の人員を削減しても、より質の高いサービスが提供出来ることを前提に、事業所全体3ユニットで2名の夜勤職員体制に移行する予定です。 これによって、施設全体の職員の労務負担を軽減出来ると同時に、シフト削減によって削減された人件費は、夜勤職員に配分すると同時に、施設職員福利厚生費に充当し、職場環境改善に努めます。 	
利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> 携帯端末から、利用者様の状況を適宜映像で確認することにより、不要な訪室を削減することが出来ます。これによって、利用者様の睡眠の質が向上し、当社が目標とする「夜間ぐっすりプロジェクト」を推進することが出来ます。 「夜間ぐっすりプロジェクト」とは、医師と連携協力し、利用者様に質の高い睡眠をとっていただき、生活リズムを整え、より健康的に暮らしていただくことを目指す取り組みです。 結果的に本プロジェクトの推進により、夜勤職員の労務は軽減され、見守り業務に徹することにより、効率的に休憩時間を確保することが出来ることとなります。 また、本システム導入により、万が一発生した居室内の転倒転落事故に対し、その原因分析を具体的にまた速やかに実施し、再発防止策を講ずることが出来ます。結果として、行政、医療関係者、家族様に的確に状況を説明させていただき、より安心していただくことが出来ます。これにより、事故対応に要していた人員、時間の削減が見込まれます。 	
これらの取組により期待される効果等	
<ul style="list-style-type: none"> 総合的に見守り体制が強化され、昼夜を問わず、ナースコールによって利用者様と職員が密にコミュニケーションを図ることが出来、介護サービスの質の向上につながります。 ご利用者様の転倒・転落のメカニズムを探ることも可能となり、事故防止、より効果的な再発防止策を講ずることが出来ます。 本システムが、一人夜勤体制の職員をある意味、監理監督する役割も果たし、職員の意識改革、業務改善（業務怠慢の抑止）を促すこととなります。 	